

建築教育ニュース

2018.12

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長挨拶	会長 平田 誠一	1
2. 平成29年度事業及び会計（決算）報告	事務局	2
3. 平成30年度事業計画・会計（予算）報告	事務局	3
4. 平成29年度役員一覧	事務局	4
5. 平成30年度総会・研究協議会報告	長野大会事務局 藤原 栄治（長野工）	6
6. 平成30年度夏期研究協議会報告	法規分科会 根岸 俊行（館林商工）	8
7. 製図分科会 活動報告	主査 吉城 守（春日部工）	10
8. 計画分科会 活動報告	主査 江原 聖直（川越工）	12
9. 法規分科会 活動報告	主査 根岸 俊行（館林商工）	14
10. 構造分科会 活動報告	小澤 誠志（総合工科）	16
11. 施工分科会 活動報告	主査 林 祐介（市川工）	18
12. 製図コンクール運営委員会 審査結果報告	委員長 卜部寿々子（京葉工）	20
13. 資格取得推進委員会 活動報告	委員長 石井 直樹（高崎工）	26
14. 北海道の建築教育の現状	理事 南 一臣（室蘭工）	28
15. 山梨県の建築教育の現状	理事 菅沼 雄介（甲府工）	30
16. 新潟県の建築教育の現状	理事 中村 和史（新津工）	32
17. 福井県の建築教育の現状	理事 橋本 和之（武生工）	34
18. 事務局報告	事務局長 野村 博美（総合工科）	37
19. 編集後記		39

■東日本建築教育研究会ホームページ

<http://www.hnkkk.org/>

1. 会長挨拶



東京都立総合工科高等学校
校長 平田 誠 一

はじめに、今年に入って6月には大阪府北部を震源とする地震、7月には西日本を中心とする豪雨に続き、9月には北海道胆振地方を震源とする地震により、全国各地に甚大な被害が相次ぎました。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々が一日も早く日常生活に戻れますようお願い申し上げます。

さて、私は、平成29年度第67回東日本建築教育研究会愛知大会の総会において、会長としてご承認いただき、今年二年目の任期を迎えました。本年度も新役員の皆様とともに力を合わせ、本研究会の充実・発展に取り組む所存です。そして、この度の長野大会も、大会実行委員長の森本克則校長先生をはじめ、関係者の皆様のご尽力により、総会に引き続き、「快適な空間の創造」をテーマとする研究協議、講演、研究視察など、充実した素晴らしい内容となりました。さらに、ご多用のところ、文部科学省、長野県教育委員会、全国工業高等学校長協会、長野県建設業協会の方々にご来賓として、ご臨席を賜りました。誠にありがとうございました。

思い返せば、今年は観測史上まれに見る記録的な猛暑で、全国各地で熱中症をはじめとする犠牲者が続出し、気象庁の会見では「ひとつの災害として認識」という見解が示されました。また、冒頭にあげた各地の甚大な被害は現在も継続しており、今年の夏以降は、人と住居と自然災害との関連について、多くのことを考えさせられました。人間の力が自然の猛威を越えることは難しいこととは思いますが、このような過酷な自然環境のなかで、我々人間が如何に自然と共存し、安心・安全、かつ「快適な空間」を創造していくかということは、もはや建築業界に課せられた使命かもしれません。

その一方で、東京オリンピック・パラリンピックを、いよいよ2年後に控え、各競技場の建設ラッシュもいよいよ佳境を迎えるなど、建築の分野は、ますます注目されていることも事実であります。

このような社会情勢のなかで、我々の目前に控えているものは、戦後最大の教育改革と言われる、平成34年度次期学習指導要領実施です。先生方におかれましては、建築教育を介して、工業高校で学ぶ生徒たちが、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う資質・能力を明確に打ち出し、各校の教育課程のなかで育成していくために、本研究会の活動の成果をそれぞれの学校で活用し、これからの授業実践に生かして欲しいと思います。本研究会の活動を充実させ、工業教育の振興に一層努めていくためにも、会員の皆様これまで以上のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2. 平成29年度 事業報告

1. 総会・研究協議会

期 日 : 平成29年7月27日(木)～7月28日(金)
開 場 : HOTEL ルブラ王山
愛知県名古屋市千種区覚王山通8-18
TEL 052-762-3151

- 1) 開会式
- 2) 講演: 文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室教科調査官
- 3) 総 会
- 4) 研究協議会Ⅰ(分科会)
- 5) 教育懇談会
- 6) 研究協議会Ⅱ(研究発表等)
- 7) 講 評
- 8) 閉会式
- 9) 研究視察

2. 夏期研究協議会(計画分科会主催)

内 容 「[建築模型について～製作講習会及び模型展示施設等見学会～]」
期 日 平成29年8月9日(水)～8月10日(木)
会 場 日本工学院専門学校・建築倉庫 ARCHI-DEPOT

3. 理事会・主査会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年2回開催予定
- 3) 主 査 会 役員のうち、会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊 行 物
 - (ア) 建築教育ニュース2017年号(400部、11月発行予定)
 - (イ) 会員名簿(300部、7月発行予定)
 - (ウ) 参考書(基礎問題集・構造図集・法規学習ノート、共に実教出版発行)

4. コンクール・作品展示等

- 1) 第36回全国高校生建築製図コンクール
 - (ア) 募集期間 平成29年10月1日(日)～11月10日(金)

5. 平成28年度生徒表彰

申込み 平成30年1月末日 要項は建築ニュース発送時に同封

6. その他 関係諸団体との連絡調整

3. 平成30年度 事業計画

1. 総会・研究協議会

期 日 : 平成30年8月2日(木)～8月3日(金)
開 場 : ホテルメトロポリタン長野
長野県長野市南石堂町1346
TEL 026-291-7000

- 1) 開会式
- 2) 講演: 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
日本パーstek協会
- 3) 総 会
- 4) 研究協議会Ⅰ(分科会)
- 5) 教育懇談会
- 6) 研究協議会Ⅱ(研究発表等)
- 7) 講 評
- 8) 閉会式
- 9) 研究視察

2. 夏期研究協議会(法規分科会主催)

内 容 「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」
期 日 平成30年8月9日(木)～8月10日(金)
会 場 中央工学校、ダイキン ソリューションプラザ「フォーハ東京」

3. 理事会・主査会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年2回開催予定
- 3) 主 査 会 役員のうち、会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で
年6回開催予定
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊 行 物
(ア) 建築教育ニュース2018年号(400部、11月発行予定)
(イ) 会員名簿(300部、7月発行予定)
(ウ) 参考書(基礎問題集・構造図集・法規学習ノート、共に実教出版発行)

4. コンクール・作品展示等

- 1) 第37回全国高校生建築製図コンクール
(ア) 募集期間 平成30年11月5日(月)～11月9日(金)

5. 平成30年度生徒表彰

申込み 平成31年1月末日 要項は建築ニュース発送時に同封

6. その他 関係諸団体との連絡調整

4. 平成29年度 役員名簿

1. 会 長 平 田 誠 一 東京都立総合工科高等学校 (校長)

2. 副 会 長 石 原 正 道 名古屋市立工芸高等学校 (校長)
森 本 克 則 長野県長野工業高等学校 (校長)
小 島 聡 千葉県立市川工業高等学校
米 原 良 慈 東京都立総合工科高等学校

3. 事 務 局 長 成 田 伸 生 東京都立総合工科高等学校

4. 会 計 佐 藤 裕 二 東京都立総合工科高等学校

5. 常 任 理 事 [※会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計は兼任]

☆横 柳 淳 (北海道ブロック・苫小牧工)	秋 谷 悟 (東京・葛西工)
笹 原 俊 樹 (東北ブロック・十和田工)	鈴 木 隆 (東京・田無工)
橋 本 和 之 (北信越ブロック・武生工)	遠 藤 悟 (東京・蔵前工)
渡 邊 治 (東海ブロック・沼津工)	高 橋 康 代 (東京・蔵前工定)
荒 木 宏 道 (関東ブロック・館林商工)	高 野 秀 章 (東京・日工大駒場)
菅 谷 太 郎 (埼玉・春日部工)	村 上 高 俊 (東京・昭和第一学園)
黒 崎 利 之 (栃木・宇都宮工)	千 葉 一 雄 (東京・東工大付科技)
黒 澤 昇 (群馬・高崎工)	高 橋 裕 (神奈川・小田原城北工)
中 田 秀 樹 (山梨・甲府工)	神 野 義 久 (大会事務局・半田工)
生田目 淳 子 (茨城・下館工)	藤 原 栄 治 (次回大会事務局・長野工)

6. 都 道 県 理 事

北海道 南 一 臣 (室蘭工)	北海道 横 柳 淳 (苫小牧工)
★青 森 笹 原 俊 樹 (十和田工)	岩 手 外 里 昌 治 (盛岡工)
宮 城 畠 山 弘 幸 (石巻工)	秋 田 坂 本 敦 (由利工)
山 形 叶 内 克 成 (鶴岡工)	福 島 長 谷 沼 徹 (郡山北工)
栃 木 黒 崎 利 之 (宇都宮工)	群 馬 荒 木 宏 道 (館林商工)
埼 玉 吉 野 博 行 (熊谷工)	茨 城 生田目 淳 子 (下館工)
東 京 五 十 嵐 義 徳 (田無工)	東 京 遠 藤 悟 (蔵前工)
神奈川 高 橋 裕 (小田原城北工)	千 葉 小 島 聡 (市川工定)
新 潟 中 村 和 史 (新津工)	山 梨 菅 沼 雄 介 (富士北稜)
富 山 葛 井 保 秀 (高岡工芸)	長 野 川 俣 晃 (長野工)
福 井 橋 本 和 之 (武生工)	石 川 中 田 智 晴 (金沢市立工業)
愛 知 竹 内 尊 司 (半田工)	静 岡 渡 邊 治 (沼津工)
岐 阜 安 江 博 (岐南工)	

7. 会 計 監 査 白 井 尚 美 東京都立蔵前工業高等学校 (定時制)
佐 藤 剛 神奈川県立神奈川工業高等学校

8. 分 科 会 委 員

1) 製 図 分 科 会 : 主 査 吉 城 守 (春日部工)

☆國 島 かほり (神奈川工) 小 島 聡 (市川工定) 笹 崎 ひろみ (墨田工)
村 井 和 幸 (新潟県央工) 中 曾 根 康 (高崎工) 谷 内 昭 彦 (金沢市立工業)

2) 計 画 分 科 会 : 主 査 江 原 聖 直 (川越工)

☆田 中 和 夫 (田無工) 岩 上 成 輝 (川崎総合科学) 田 村 雄 志 (川崎総合科学)
荒 木 宏 道 (館林商工) 門 馬 紀 介 (墨田工) 畠 山 弘 幸 (石巻工)
中江田 澄 江 (総合工科) 三 河 友 美 (総合工科) 前 島 奨 (大宮工)

3) 法 規 分 科 会 : 主 査 根 岸 俊 行 (館林商工)

☆大 木 英 生 (藤沢工科) 米 原 良 慈 (総合工科) 中 田 智 晴 (金沢市立工)
谷 康 博 (敦賀工) 広 田 喜 文 (武生工) 菅 沼 俊 一 (白石工)
笹 原 玲 香 (島田工) 田 村 信 義 (安房拓心) 岩 瀬 政 利 (東総工)

4) 構造分科会：主査 佐々木 英治 (藤沢工科)

☆小澤 誠 志 (総合工科)	青 柳 昭 (市川工)	榎 本 吉 晃 (安田学園)
高橋 康 代 (蔵前工定)	松 本 紗 苗 (総合工科)	大久保 健 (田無工)
宮田 翔 平 (田無工)	鈴 木 隆 (田無工)	松 原 昌 忠 (田無工)
高橋 裕 (小田原城北工)	遠 藤 啓 史 (市川工)	井 上 純 一 (千葉工)
菅谷 太 郎 (春日部工)	黒 澤 昇 (高崎工)	星 野 志 保 (甲府工定)
菅 沼 雄 介 (富士北陵)	袖 野 貴 義 (小松工)	益 野 英 昌 (仙台工)

5) 施工分科会：主査 林 祐 介 (京葉工)

☆渡 邊 恵 一 (小山北桜)	吉 村 公 利 (大宮工)	平 柳 政 幸 (日工大駒場)
高 旨 清 仁 (東総工)	田 島 儀 雄 (那須清峰)	松 本 広 一 (桐生工)
浜 辺 恵 一 (磯子工)		

9. 編集委員会：委員長 小 関 茂 雄 (京葉工)

☆遠 藤 啓 史 (市川工) 田 村 信 義 (安房拓心)

10. 製図コンクール運営委員会：委員長 卜 部 寿々子 (京葉工)

☆佐 藤 康 雄 (神奈川工定)	高 野 史 晃 (真岡工)	
(製図分科会) 中曾根 康 (高崎工)	村 井 和 幸 (新潟県央工)	笹 崎 ひろみ (墨田工)
(計画分科会) 荒 木 宏 道 (館林商工)	畠 山 弘 幸 (石巻工)	田 村 雄 志 (川崎総合科学)
(法規分科会) 大 木 英 生 (藤沢工科)	萱 沼 俊 一 (白石工)	
(構造分科会) 鈴 木 隆 (田無工)	松 本 紗 苗 (総合工科)	
(施工分科会) 吉 村 公 利 (大宮工)	平 柳 政 幸 (日工大駒場)	

11. 資格取得推進委員会：委員長 石 井 直 樹 (前橋工)

☆泉 隆 一 (大宮工)	鈴 木 隆 (田無工)	五十嵐 忠 彦 (宇都宮工)
遠 藤 啓 史 (市川工)	小 林 克 哉 (蔵前工)	松 本 紗 苗 (総合工科)

12. 広報委員会：委員長 高 橋 裕 (小田原城北工)

☆佐々木 英 治 (藤沢工科) 菅 谷 太 郎 (春日部工) 榎 本 吉 晃 (安田学園)

13. 顧問及び参与

1) 顧問

北 島 敬 己 (第16代会長)	原 田 昭 (第18代会長)	岡 田 義 治 (元委員長)
佐 藤 清 親 (第20代会長)	能 智 功 (第21代会長)	佐 藤 則 夫 (第22代会長)
村 田 敬 一 (元前橋工校長)	平 林 博 (第23代会長)	豊 田 善 敬 (第24代会長)
小 林 晶 代 (第25代会長)		

2) 参与

土 田 裕 康 (元副会長)	大 間 俊 彦 (元編集委員長)	大久保 健 (元副会長)
小 沢 宏 (元副会長)		

14. 全国高等学校建築教育連絡協議会

会 長	平 田 誠 一	東京都立総合工科高等学校 (校長)
副 会 長	石 原 正 道	名古屋市立工芸高等学校 (校長)
副 会 長	森 本 克 則	長野県長野工業高等学校 (校長)
事務局長	小 島 聡	千葉県立市川工業高等学校
会 計	成 田 仲 生	東京都立総合工科高等学校
理 事	米 原 良 慈	東京都立総合工科高等学校

5. 平成30年度総会・研究協議会報告

長野大会事務局長
長野県長野工業高校
藤原 栄治

1. はじめに

今年度の総会・研究協議会は通算68回目にあたり、開催地に合わせて長野大会と称した。事務局を長野工業高校に置き、上田千曲高校、飯田OIDE長姫高校、池田工業高校、中野立志館高校、丸子修学館高校、木曾青峰高校、松本工業高校が協力して運営にあたった。

2. 大会テーマ

『快適な空間の創造』

3. 期日・会場・参加人数

期日：平成30年8月2日(木)～3日(金)

会場：ホテルメトロポリタン長野

参加人数：170名

(内訳 会員139名、賛助会員22名、来賓9名)

4. 大会の概要

《第1日目 8月2日(木)》

○開会式 (13:00～13:25)

＜来賓＞※講師等除く

長野県教育委員会	教学指導課	課長	佐倉 俊
〃	〃	担当主事	犬飼 健一
〃	高校教育課	主任担当主事	松原 雄一
長野県総合教育センター	情報・産業教育部		
		部長	鈴木 芳昭
長野県高等学校長会		会長	今井 義明
(一社)長野県建設業協会	専務理事		小林 康成

○総会 (13:30～14:30)

平成29年度事業報告・会計決算報告・会計監査報告が行われ、承認された。役員改選の後、平成30年度事業計画・予算案が提案され承認された。

続いて各分科会・委員会より活動報告を受け、最後に平成37年の大会開催地を確認し、岐阜県に決定した。



(写真1)



(写真2)

○講演 (14:40～15:50)

①「高等学校学習指導要領の改訂と工業教育」

文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室
教科調査官 持田 雄一

この春(H30年3月)に改定されたばかりの、新学習指導要領について、工業や建築に関する部分を取り出して説明していただいた。

まず、「職業に関する教科」の改定ポイントは、地域や社会の発展を担う職業人を育成するため、“持続可能

な社会の構築”、“情報化の一層の進展”、“グローバル化などへの対応”の3つの視点から各教科の教育内容を改善することであり、“何ができるようにするか”、“どのように学ぶか”、“何を学ぶか”という「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す視点が貫かれている。

また、具体的には、「各教科の目標」の記述が“知識及び技術”、“思考力・判断力・表現力”、“学びに向かう力、人間性等”の3本柱で再整理されており、共通する目的として“実践的・体験的学習活動を行う”、“職業人に求められる倫理観”、“社会貢献に主体的・協働的に取り組む”といった内容が含まれている。

最後に授業改善をどのようにすすめるかが例示されてまとめとなった。

②「100回の説明より1枚のスケッチ」

(一社)日本パーステック協会 理事長 宮後 浩
2本目の講演は、手書きパースの第一人者、宮後浩先生にお願いした。

建物(住宅)を建てる際、施主は建築の専門家ではない。その人たちにいくら説明しても、こちらの意図は伝わりにくい。しかし、パースを示すことで一気に理解がすすむ。このパースというものの、作品として残すにはポスターカラー、ガッシュ、水彩絵具、色鉛筆、エアブラシ、CGと、いろんな技法が生まれ進歩しているが、基礎のイメージスケッチの部分は全く変わっていない。であるからこそ、建築技術者としてこのスキルを身に付け、お客さんの前でササッと書いて提案できることがいかに効果的か。先生が書かれた数々の実例をもとに話していただいた。

○研究協議 I (分科会) 16:00～17:00

①製図分科会：

「宮後浩先生に学ぶ、魅せる手描きパースのテクニック」

製図分科会では、全体講演に続いて宮後先生に講師をお願いし、手書きパースの技法について講習が行われた。機器の不具合で急遽ホワイトボードでの講義となったが、樹木、人物、車などの添景の描き方、光と陰影の表現方法等のテクニックを熱心に教えていただいた。

次に、吉村順三「軽井沢山荘」を題材に、外観スケッチの手順、着彩ペンでの着色の実演があり、先生の「魔法の手」から生み出される線と色に一同魅了された。

②構造分科会：

「耐震・免震・制震 ～安全性を確保する居住空間～」

構造分科会では、安全性を確保する居住空間の授業展開について研究協議を行った。

はじめに、3班に分かれて耐震・免震・制震を割り振り、グループワークを行い発表した。その後、調べた内容をもとに、基本となるラーメン構造に100均ショップで購入した材料で耐震・免震・制震を加えた模型を製作し、耐震実験を行った。今後の構造分野における授業指導の参考となった。

③施工分科会：

「環境の積極性～ 技能の可視化による実習指導～」

施工分科会では、富山大学芸術文化学部名誉教授の小松研治先生をお招きして講話をいただいた。内容は技能を分かりやすく見える形で生徒に提示し、その可視化物を日常の環境の中に配置することによって教育効果を高める「環境の積極性」という考え方の事例について、先生が制作された教材を使用した実践および動画を交えながら講演をいただいた。

《第2日目 8月3日(金)》

○研究協議Ⅱ(9:00～10:40)

(1) 研究発表

①「長野工業高校 高大連携による建築教育のとりくみ」

長野県長野工業高等学校建築科
大村 直紀

長野工業高校に近在する信州大学工学部との連携事業で、“信州大学工学部研究室体験プロジェクト”との名のもと、長野工業の各学科が参加している。

6月からの約半年間、月3～4回のペースで研究室へ生徒たちが通い、大学生・院生と同じようなテーマについてゼミ形式で講義を受け、実験研究を行うというものである。課題研究の1テーマとして位置付けられ、大学に通うのはその授業時間が充てられている。

これまで、歴史的建造物の保存(計画系)、在来軸組仕口の強度(構造系)、教室の寒暑感と作業効率(環境系)など、この連携を受け持つ研究室によって、毎年研究テーマが変わった。今回は、2016年に取り組みされた“3層ガラスの断熱性能に関する研究”の内容を詳しく紹介、最後に今後の課題等についてまとめられた。

②「苫小牧、函館における地域と連携した建築教育の取組み」

北海道苫小牧工業高等学校建築科
北側 智哉

サブタイトルを“苫小牧まちなか再生総合プロジェクト～高校生が関わる都市中心部活性化に向けた取組み～”とし、道内4番目の人口規模でありながら、東部地区の急速な発展で中心部が衰退、とりわけ苫小牧駅周辺の活気喪失に悩む地元の再生に、苫小牧生が立ち上がり、その取組みが継続・発展した事例が報告された。

当初は課題研究にて活性化策が取り組まれ、まずアンケートや現地調査を実施、現況の街並みと改善案を反映させたモデルを製作した。その後、北海道建築士会主催のまちづくりフォーラムにて発表したところ、地域も注目するところとなり、“まちなかみんなのベンチプロジェクト”、“緑の空間リノベーションプロジェクト”、“まちなかインフォメーションボードプロジェクト”、新苫小牧市民ホール計画等への参画等、中心部活性化に向けた取組みのつながりと広がりが見られた。

用意した時間が短く、函館のとりくみについては、十分触れていただけず、申し訳なかった。

(2) 分科会報告

前日の分科会(研究協議Ⅰ)の様子について、各主査より報告を受けた。

○講評(10:50～11:00)

長野県総合教育センター 情報・産業教育部

専門主事 上野 真一

○閉会式(11:00～11:30)

会長挨拶、実行委員長謝辞、次期開催地代表挨拶



(写真3)



(写真4)

○研究視察(13:00～17:00)

(1) 松代コース

松代象山地下壕の視察は、当日参加も含め21名が参加。かつて県内高校で教鞭を執り、現在ボランティアガイドをされている久保田雅文氏の案内で見学した。

ここは太平洋戦争末期、本土決戦の指揮を執る場所として密かに政府中枢機能を松代の山中地下に移転するために掘られた地下坑道であるが、当時作業に従事した人々の状況を推察し、複雑な思いでの視察となった。他にも周辺を散策しつつ、山寺常山邸や、佐久間象山記念館も見学し、見聞を深めた。

(2) 善光寺コース「善光寺の謎と魅力」

かつて県内高校建築科で教鞭を執り、現在長野市伝統環境保護審議委員をされている相原文哉氏に案内と説明をして頂いた。

仁王門の阿形像と呷形像が一般的な配置とは逆になっており、冬至の朝日が阿形像の顔に当たるようになっていることを氏が発見したとのこと。冬至は一年で特別な意味を持つ日であるという。(一陽来復)

仲見世通りには、かつて中世善光寺の本堂である如来堂が有り、本尊を守るかのように善光寺七社等が取り囲むよう配置され「仏のオーラ」が集まるパワースポットとなっている。

本堂にある「ねじれ柱」は焼失した本堂の再建を急ぐために乾燥が不十分なまま使う柱の欠点を互いに相殺するための匠の技である等々、氏の説明は間断なく進み、2時間の予定が瞬く間に過ぎた。



5. おわりに

利便性を考え長野駅近くのホテルを会場とするには、我々の力だけでは開催不可能であった。賛助会員様による展示ブース出展、地元建設業協会様はじめ各種企業・団体様による広告掲載等、多大なるご支援の下、長野大会を終えることができたことを、この場を借りて改めて御礼申し上げたい。

6. 平成30年度 東日本建築教育研究会 夏期研究協議会

「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」報告

群馬県立館林商工高等学校

根岸俊行

1 日にち 平成30年8月9日(木)・10日(金)

2 会場

【第1日目】

中央工学校「6号館」1階 建築設備実験実習室

〒114-8543

東京都北区王子本町一丁目26-17

【第2日目】

ダイキンソリューションプラザ「フォーハ東京」

〒163-0801

東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル1階

TOTOテクニカルセンター東京/TOTO東京センターショールーム

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-1-5 JR南新宿ビル

3 参加者人数 18名

4 内容

【第1日目】 8月9日(木)	
9:30~10:00	受付 中央工学校「6号館」1階 建築設備実験実習室
10:00~10:05	開会のご挨拶
10:05~10:20	講義 建築物省エネ法などの解説
10:30~12:30	新入社員研修 給排水衛生設備・防災設備・空調和換気設備の説明及び実習 昼食
13:30~15:00	環境実習 温度・湿度、気流、二酸化炭素、浮遊粉塵、残留塩素などの実習
15:30~16:30	建設現場見学 「中央工学校 王子キャンパス整備計画」の現場見学

【第2日目】 8月10日(金)	
10:15~10:30	受付 新宿NSビル2F
10:30~12:00	施設見学 ダイキンソリューションプラザ「フォーハ東京」 昼食
14:00~15:00	施設見学 TOTOテクニカルセンター東京
15:00~16:30	施設見学 TOTO東京センターショールーム

5 研修風景



新入社員研修(給排水衛生設備)



新入社員研修(防災設備)



建設現場見学(清水建設)



ダイキン(エアコンの分解実習)



TOTOテクニカルセンター東京



新国立競技場（追加見学）

6 アンケート結果

	□ たいへん良い	□ 良い	□ 普通	□ 良くない
1 講義 建築物省エネ法などの解説				
2 新入社員研修 給排水衛生設備・防災設備・空調和換気設備の説明及び実習				
3 環境実習 温度・湿度、気流、一酸化炭素・二酸化炭素、浮遊粉塵、残留塩素などの実習				
4 建設現場見学 「中央工学校 王子キャンパス整備計画」				
5 施設見学 ダイキン ソリューションプラザ「フーハ東京」				
6 施設見学 TOTOテクニカルセンター東京				
7 施設見学 TOTO東京センターショールーム				
8 ご意見	<p>今後もこのような体験学習的な研修を期待しています。</p> <p>初めて「夏期研修会」に参加させて頂きましたが、内容が充実しており、次回も参加したくなりました。企画、準備、運営まで大変お疲れ様でした。併せまして、感謝申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>素晴らしい協議会でした。設備系について色々と学ぶことができました。また、先生方との交流もでき、実りある勉強会になりました。ありがとうございました。</p> <p>今回、大変有意義な2日間を頂きました。ありがとうございます。内容のすばらしさはもちろん、それに加えてスケジュールの組み立てや配慮のきめ細かさなど、感嘆いたしました。</p> <p>企画、準備、開催と大変お疲れ様でした。楽しい2日間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。</p> <p>素敵な研修内容でした。自分の知らない知識が次々に飛び込んできたので、自分自身の勉強不足さを実感しました。次の研修もあれば是非参加したいです。</p>			

7. 製図分科会 活動報告

埼玉県立春日部工業高等学校
吉 城 守

1. はじめに

製図分科会では「教材の提案」と「研修の場の設定」を大きな目標として活動しています。教科書だけでは指導しづらい部分を補う教材の提案や教員対象の「製図指導者研修会」、生徒対象の「高校生設計製図講習会」を実施してきました。

以下に愛知大会以降の活動報告をいたします。

2. 製図分科会活動状況

(1) 2017年12月7日（於：中央工学校）

製図分科会委員会

- ・愛知大会報告
- ・製図分科会「製図指導冊子」の作成について
- ・長野大会研究協議（製図分科会）内容について
- ・教科書「建築設計製図」活用状況調査について
- ・その他

(2) 2018年6月5日（於：中央工学校）

製図分科会委員会

- ・現場見学（中央工学校新校舎建設現場）
- ・長野大会研究協議（製図分科会）について
- ・教科書「建築設計製図」活用状況調査について
- ・建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」について
- ・その他
- ・中央工学校主催、コンペティション入賞作品見学

(3) 2018年7月25日（於：千葉県立市川工業高等学校）

製図分科会委員会

- ・長野大会研究協議（製図分科会）運営について
- ・建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」について
- ・その他
- ・鉄筋施工図の技能検定試験講習会

3. 第68回 東日本建築教育研究会長野大会

研究協議Ⅰ（製図分科会） 報告

開催日：平成30年8月3日（金）

会 場：ホテルメトロポリタン長野

参加者：49名

テーマ：「宮後浩先生に学ぶ、魅せる手描きパースのテクニック」

研究協議Ⅰ（製図分科会）では、全体会講演につづき（一社）日本パーステック協会理事長の宮後浩先生から実践的なパース技法を学ぶ内容で実施しました。宮後浩先生は、日本を代表するパースの指導者であり、「なぞっておぼえる遠近法スケッチパース ツボとコツ」、「パーステック」、「インテリアプレゼンテーション」など多くの著書があります。その先生のご講義とあり、40名を超える多くの先生方に参加いただきました。

樹木や車・人物などの添景の描き方のポイントや光と陰影のテクニックなどを中心にご講義いただきました。予定では参加された先生方にパースを実際に描いていただくという計画でしたが、機材トラブルにより宮後

先生が実際に描いているところを見学する形式に急遽変更いたしました。参加された先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、アンケートにもあるように、多くの先生方から「大変参考になった。」との声をいただき、今回の研究協議が概ね成功に終わったのではないかと思います。

宮後先生がご講義の中で「まず教師が学び、好きにならないと生徒に教えられる。」とおっしゃられていましたが、パースはもとより全ての授業に通じるものではないかと感じました。それが参加された先生方にも伝わったのではないかと考えています。

最後になりますが、（一社）日本パーステック協会理事長の宮後浩先生並びに、関東支部の関谷真理子様には感謝申し上げます。また、研究協議にご参加いただきました先生方並びに、運営をお手伝いいただきました長野県の先生方にあらためてお礼申し上げます。



■アンケート結果

(1) 研究協議会全体を通しての感想をお聞かせください。

（一部抜粋）

- ・各種資料をいただき、参考になる情報を教えていただくことができました。
- ・添景などについて学ぶ機会が多くないため、今後の指導に取り入れていきたいと思った。
- ・パースは難しいと思っていたが、描き方を覚えれば比較的簡単に描けるんだなと思った。
- ・光と陰影についての話がわかりやすかった。
- ・パースに興味があったので、プロの先生にテクニックを直に教えていただき、大変参考になった。この手の企画をまたお願いしたい。
- ・非常に勉強になりました。話しが面白く、生徒へ伝えたい内容でした。手描きスケッチが工業高校生の強みになると価値があると思います。
- ・描くポイントをわかりやすく解説してくれて、とても参考になった。コピックのテクニックを間近で見られて、挑戦してみたいと思った。
- ・パースを描くことに苦手意識がありましたが、今回の講義を受けて、楽しくパースを描けそうだと感じました。家に帰って積極的に練習して、パースが描けるようにしたいです。
- ・宮後先生の技術を目の前で見ることができ、大変良かったです。今後も現場で効果を上げているプロの方の話や技術を感じることができる大会であればと感じました。

- ・製図の中で、パースの指導について学科内で意見の違いもあり、今はカリキュラムに入れていません。しかし、今回の研修会を通じて、今後授業に取り入れたいと感じました。
- ・宮後先生の実演を間近で見られて大変良かった。さらに、動画もOKなんてラッキーでした。
- ・宮後先生の話に引き込まれました。パースの基本的なことを教えていただき、非常に参考になった。私も苦手ですが、自分でもう少し練習しようと強く思いました。
- ・添景は授業でも取り入れています。資料を配布し描きなさいと、一方通行な指導だったので、大変参考になりました。手描きの大切さを確認できました。
- ・トラブルもありましたが、実際に授業で生徒に伝えることを多く学びました。ありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。もう一度きちんと見たいです。プロジェクターの不備が残念でした。
- ・機器類のトラブルは仕方ないですが、代替案も必要では？おもしろい内容なのにもったいない。

(2) スケッチやパースを活用している授業がありましたら、授業に○を付けていただき、具体的内容を簡単にお書き下さい。※複数回答可。[]内、回答数

- ・製 図 [16] ・工業基礎 [10] ・実 習 [19]
- ・情報基礎 [0] ・課題研究 [11] ・その他 [0]
- ・座 学 [3]

具体的内容

- ・1点、2点透視図 [16] ・外観、内観パース [6]
- ・立体表現 (アイソメ、三角法等) [3]
- ・3D-CADパース [3]
- ・立体物のスケッチ [2] ・インテリアパース [2]
- ・卒業設計の表紙 [1] ・コンペ用のパース [1]
- ・イメージパース [1]

(3) 製図分科会で取上げて欲しいテーマやご要望がございましたらお書きください。[]内、回答数

- ・パースに関する指導について (実演形式、着色・プレゼン方法、今年度の継続等) [7]
- ・CADに関する指導について (Jw_cad、SketchUp、3D-CAD、BIM、ARCHI-CAD等) [4]
- ・設計デザインコンペに関する指導について (入選必勝法、入賞経験校の先生の話) [2]
- ・その他 (図面理解の方法、平面を立体的に理解する方法、スケール感の養成、ランドスケープデザイン、視覚的教材)



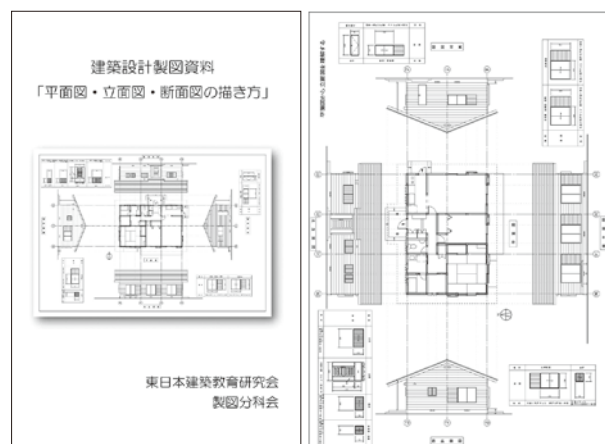
4. 建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」

平成27、28年と教科書の活用状況調査を実施いたしました。昨年度、愛知大会で「建築設計製図」活用状況調査の結果報告をさせていただきましたが、多くの学校で教科書以外の教材を活用していることが分かりました。そこで、今まで製図分科会で研究をつづけてきた初期製図の指導方法を冊子 (建築設計製図資料「平面図・立面図・断面図の描き方」) にまとめました。

内容は、1/50の平面図を1/100の表現で描くことにより図面の描き方を学ぶ方法や平面図と関連付けて立面図や断面図を描く方法。また、屋根伏図を学びながら立面図や断面図に表現する資料など、初期製図指導の参考にしていただけるような内容を掲載いたしました。

冊子の数に限りがございますので、長野大会では各都道府県理事と研究協議 (製図分科会) に参加された先生方に配布をさせていただきました。各都道府県や学校で閲覧していただき興味を持った方がいらっしゃいましたら、担当者へメールでご連絡ください。データ (PDF) をお送りいたします。指導の一助としていただければ幸いです。

連絡先: seizu@hnkkk.org
製図分科会主査 吉城 守
埼玉県立大宮工業高等学校 建築科
TEL 048-651-0445



6. おわりに

製図分科会担当の各種研修会の様子は報告書として、東日本建築教育研究会のホームページ (<http://www.hnkkk.org/>) に掲載してありますので、是非ご覧いただければと思います。

今後も製図の指導方法について研究を重ね、会員の皆様に情報提供していきたいと考えています。製図指導に関するご意見やご要望をお待ちしております。また、過去に実施してきました製図指導や3D-CADに関する教員向けの研修会や生徒向けの講習会等を県や学校単位で実施したいとの要望があれば、お声掛けいただければと思います。

現在、製図分科会委員を募集をしています。製図指導に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非一緒に研究をしていただければと思います。

製図分科会の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

8. 計画分科会 活動報告

埼玉県立川越工業高等学校
江原 聖 直

1. はじめに

計画分科会では昨年度に引き続き「建築模型」について、指導方法並びに教材活用などについて研究を行って参りました。

平成28年度千葉大会にて「模型製作指導法 ～スチレンボードを使った基本的な加工法について～」と題し、模型製作の演習を通じ、製作の中から気づいた点について協議を行いました。

昨年度は、上記に基づき更に指導方法を発展させる目的として、夏期研究協議会を開催しました。今年度の活動を報告いたします。

2. 模型指導に関するアンケート結果

これまでに計画分科会で実施しました講習会及び研究協議会において参加された先生方の所属校における模型指導について、実施状況、問題点、改善に向けた取り組みなどをアンケート形式で調査を行いました。

- ・平成29年度夏期研究協議（H29.8.9、8.10）
回答総数：25

1 模型指導に関する調査

1) 実際に貴校で模型の指導に取り組まれている「学年・科目・内容」をご記入ください。（複数学年に渡る場合も回答）

学年	科目	内容
1	工業技術基礎	平屋住宅模型（外観のみ）、 ケント紙による「お越し絵」 スチレンボード模型（5校） 小屋組み模型（1/100）、 軸組模型（一部分）：（7校）
	設計製図	構造軸組模型（2校）、意匠模型
2	建築実習	2階建て住宅模型（外観のみ） スチレンボード模型 軸組模型（3校）
	インテリア設計	インテリア模型、椅子模型
3	実習	スチレンボード模型（2校） 自身が設計した建物の軸組模型
	製図	建築展作品
	課題研究	二級建築士を基にした、自由設計（3校）、卒業設計 近隣小学校へ絵画コンクールの家を模型にして渡す 2年時の自己設計の模型製作 コンベ模型製作（5校） 原っぱのジオラマ（ビオトープ アンドプレイパーク）

2) 今回の協議で取り扱った内容を貴校の授業で取り入れる場合、想定される指導学年・学期について以下にご記入ください。（数値は校数を表す）

学年 \ 学期	1	2	3	前期	後期	通年
1	1	4	2	2	1	1
2	3	2	2			
3	2				1	1

3) 模型指導について、ご苦勞されている点についてご記入ください。（自由記述）

- ・不器用な学生が多く、カッターを使用していない学生もいます。技術の差を埋めたい。道具の使い方に個人差が大きい。（4校）
- ・完成した模型の精度が低いことが悩みです。
- ・生徒の進度に差ができる。
- ・立体的に考えることができない生徒が増えている。
- ・図面を読み取り正確に製作できない。
- ・1年生（入学当初）に模型を教えるに当たり、製図や座学での知識がなく説明が長くなる。
- ・部材名等を建築構造で指導するが理解度が低く1からやり直しになってしまう。
- ・部材名の確認テストを構造の授業のコラボで行っている。
- ・導入の気軽さの反面、生徒が模型を軽んじているようだ。発展させきれいに仕上げさせたい。
- ・最後までていねいに上げることができない。
- ・時間短縮による部材加工。（ほとんど寸法に切断して配布している）
- ・時間数の不足。進度が揃わない。時間をかけて指導したいが難しい。（3校）
- ・事前の準備用意など。
- ・材料費がかかる。県費削減の為費用が不足している。（3校）
- ・全員が同様の課題となると評価の基準を設けにくい。
- ・自由設計における模型製作（応用力の不足、個々への対応）

4) 今回の研究協議会において上記以外に、ご意見、ご感想がございましたらご記入ください。

<日本工学院専門学校における模型指導について>

- ・科目の横断的な展開に興味を持った、生徒の興味関心を持たせる方法として参考にしたい。
- ・矩計の模型を活用した授業を行いたいと思った。

<建築家 長沖 充氏による模型製作指導>

- ・プロの技術を学ぶことができたので大変参考になった。自身の勉強となった。
- ・久しぶりに模型のいろはを学び、自己流だった部分もあり、改めて美しい模型を作ることは大切で学生指導にもっと力を入れようと思いました。
- ・ボンドを必要以上に使用すると作品を汚す。学生にも注意を促したい。
- ・木工用ボンドでも十分に組み立てることができるので、学校でも活用したい。
- ・模型作りで、改めて生徒が手間取る箇所等が確認できた。
- ・市販の（模型）材料も大切だが、身近に入手できる材料で工夫することができると分かった。
- ・建築模型の写真の撮影の工夫、家具や樹木の作り方等はカッコイイ住宅模型を作るのに有用。
- ・人や樹木の作り方も教わりたい。

2 計画分科会の活動についてご要望がございましたらお書きください。

- ・今後とも学生指導に役立つ研修をお願いしたい。
- ・矩計模型を製作する機会があれば一度参加してみたい。
- ・建築環境系の研究などを見学してみたい。(例 日本工業大、ものづくり大、企業等)
- ・指導に役立つCAD研修 (JW、AUTO)

3. 模型指導に関するアンケート結果の分析

<生徒への指導について>

- ・基本的な加工に関しては、高校入学前までにカッター等を使用する機会が少ない為、道具の使用方法から行う必要があるようです。その為、進捗や完成度にも差が生じることもアンケート結果からうかがえます。
- ・模型製作に先立ち、特に入学後の初期に建築の知識(特に構造)が不足している為、部材・部分名称を実習の時間を割いて教える必要があるようです。座学の構造の進捗との連携が必要となると思われます。アンケート例より構造とのコラボ(部材名称のテスト)などの工夫が必要でしょう。
- ・完成度が上がらない原因については、授業時間の確保の難しさから「体験する」レベルに留まる点にあると思われれます。完成度の高い模型を目にする機会を増やし、各自が自主的に模型を作製する機会を与える必要があるのではないのでしょうか。

<準備について>

- ・模型材料の準備については、実習費(県費)の減額化が進んでいる中、材料費に掛ける費用が絞られる現状にあると思われれます。基本的な材料である、スチレンボード・桧角棒、接着剤、カッター替刃などで予算一杯になるのではないのでしょうか。今回の夏期研究協議会では、身近な材料(例段ボール等)安価に入手できる材料でも、工夫次第で市販の材料と同等の表現が可能であると分かりました。

<まとめ>

- ・建築模型の魅力は実物大の建築物をスケールダウンした建築そのものであり、そのスケールと同じ目線に立つことにより、平面からは読み取りきれない外観や内観のリアリティを感じることができる点にあります。また、昨今の建築を学ぶ学生に取っては、模型から読み取れる情報が3次元CADやモデリングに代替されることが多く、自らの手で作製した模型の価値に気付かない可能性もあると思われれます。模型=建築という位置づけを改めて意識させるとともに、基本的なスキルはプロでもほぼ変わらないという点から、基本の繰り返しモデル上達の近道であるということを生徒に伝えていきたいと考えております。

3. 計画分科会活動状況報告

平成29年12月7日(木)第3回 研究協議会(国立新美術館)

○「安藤忠雄展-挑戦-」見学会

○今後の模型製作の指導の参考資料とする為、建築家安藤忠雄のこれまでの業績を模型やドローイングなどで展示する企画展を見学しました。この展示会では、一般的なスケールの模型から、等身大の縮尺で再現された作品など総計200点余りの設計資料を展示していました。



平成30年5月24日(木)第1回 研究協議会(葛西工高)

○平成29年度夏期研究協議会の反省点について

模型製作指導講習会の内容並びに運営について反省を行いました。

また、研究協議時の参加者のアンケートに基づき、模型製作指導における各校の指導状況をまとめました。今後の活動方針並びに次年度以降の実施内容に反映させるよう協議を行いました。

次年度の北海道大会研究協議においては、課題研究や自由設計(コンペ)などでの模型製作に対して、「表現手法」や「魅力的な(若しくは伝わる)模型の見せ方」について研究することとなりました。

平成30年7月3日(火)第2回 研究協議会(森美術館)

○「日本の建築展:その遺伝子のもたらすもの」見学会
第1回研究協議会で決まった活動内容に従い、資料収集に当たる為、建築展の見学を実施しました。この展示会では、国際的に高評価を得ている日本人建築家達の作品について、多くの模型を展示していました。中でも、丹下健三自邸は1/3スケールで再現され、模型と建築物の中間的な位置づけとして目を惹いた作品でした。



4. おわりに

アンケート等を参考としまして、指導に活用できる方法や事例紹介を行っていきたくと考えております。

なお、次年度、北海道大会の研究協議では模型を活用しプレゼンテーションに対応する方法などを中心に、大学教授による講演会を開催する予定です。

計画分科会では、さまざまな視点から計画分野の研鑽と教材開発、知識の共有を図って参りますので今後とも宜しく願い申し上げます。

9. 法規分科会 活動報告

群馬県立館林商工高等学校
根 岸 俊 行

1. はじめに

法規分科会では、会員参加型講習会として「各種講習会・現場見学会」の実施、研究調査による研鑽と委員の更なる建築法規理解を兼ね「建築法規 過去問題集」及び「建築法規 ワークノート」の編集を、行っております。

以下、既済の活動内容及び今後の活動予定を報告します。

2. 活動報告

(昨年度 愛知大会から、本年度 夏期研究協議会まで)

I. 分科会議事

(1) 第64回 法規分科会 会議

(17/12/05 中央工学校にて)

- ・平成30年度 夏期研究協議会について
- ・平成30年版「建築法規 過去問題集」及び「建築法規 ワークノート」の編集
- ・講演「ステップアップセミナー」建築家 長田直之氏

(2) 第65回 法規分科会 会議

(18/03/29 谷尻誠設計事務所 社食堂にて)

- ・平成30年度 夏期研究協議会について
- ・平成30年版「建築法規 過去問題集」及び「建築法規 ワークノート」の編集
- ・見学会 東京ジャーミイ・トルコ文化センター「イスラム文化とモスク建築をみる」



(モスクのドーム天井)



(イスラム教について解説を聞く)

(3) 第66回 法規分科会 会議

(17/05/28 目黒区役所にて)

- ・平成30年度 夏期研究協議会について
- ・平成30年版「建築法規 過去問題集」及び「建築法規 ワークノート」の編集
- ・見学会 目黒区役所「目黒区総合庁舎における建築家村野藤吾氏の建築意匠」



(目黒区役所の外観)



(階段ホール)

(4) 第67回 法規分科会 会議 見学会

(17/07/04 世田谷区役所にて)

- ・平成30年度 夏期研究協議会について
- ・平成30年版「建築法規 過去問題集」及び「建築法規 ワークノート」の編集
- ・見学会 世田谷区役所「前川建築を訪ねる」



(世田谷区役所の外観)



(階段ホール)

II. 建築法規 過去問題集

(HPに掲載中)

研究調査による研鑽として、基礎的理解を深める発展的学習の教材「建築法規 過去問題集」の編集を行いました。

平成22年度より従前の建築士試験過去問題集に「2級建築施工管理技術検定試験問題の法令関係」の問題を追加しています。

頒布については研究会HPよりダウンロードできるようになっております。是非、ご活用いただきご意見等をお寄せ下さいますようお願い致します。

III. 建築法規 ワークノート

(HPに掲載中)

研究調査による研鑽として、生徒自らがノート代わりに手元に置きながら必須事項を整理する教材「建築法規 ワークノート」の編集を行いました。現行の教科書に対応させていただいております。

「建築法規 過去問題集」と同様に研究会HPに掲載しておりますので、ご活用いただきご意見等をお寄せ下さいますようお願い致します。

研究会HP【http://www.geocities.jp/hn_kkk/】

IV. 平成30年度総会 長野大会 分科会研究協議会

(18/08/02 ホテルメトロポリタン長野にて)

法規分科会は開かれませんでした。

来年の北海道大会も開催はなく、次回は、平成32年度秋田大会となります。

V. 平成30年度 夏期研究協議会

「建築物省エネ法・消防法を中心とした建築設備の実習」

日にち：8月9日(木)・10日(金)

参加者18名

会場：

第1日目 中央工学校 建築設備実験実習室

第2日目 ダイキンソリューションプラザ「フーハ東京」

TOTOテクニカルセンター東京

TOTO東京センターショールーム

内容：1日目は、中央工学校さまで実施している大手建設会社の新入社員研修を、工業高校の教員と生徒向けに行っていただきました。大手建設会社の新入社員はどのような心構えが必要なのか実習を通して研修しました。また、清水建設さまの「中央工学校 王子キャンパス整備計画」建設現場の見学も

行いました。2日目は、ダイキン工業さまで、エアコンの分解実習と最新の空調設備について研修を行いました。また、TOTOさまで、最新の衛生設備の研修とショールームの見学を行いました。

アンケート結果：

	たいへん良い	良い	普通	良くない
1 講義 建築物省エネ法などの解説				
2 新入社員研修 給排水衛生設備・防災設備・空調和換気設備の説明及び実習				
3 環境実習 温度・湿度、気流、一酸化炭素・二酸化炭素、浮遊粉塵、残留塩素などの実習				
4 建設現場見学 「中央工学校 王子キャンパス整備計画」				
5 施設見学 ダイキン ソリューションプラザ「フーハ東京」				
6 施設見学 TOTOテクニカルセンター東京				
7 施設見学 TOTO東京センターショールーム				
8 ご意見	<p>○今後もこのような体験学習的な研修を期待しています。</p> <p>○初めて「夏期研修会」に参加させて頂きましたが、内容が充実しており、次回も参加したくなりました。企画、準備、運営まで大変お疲れ様でした。併せて、感謝申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>○素晴らしい協議会でした。設備系について色々と学ぶことができました。また、先生方との交流もでき、実りある勉強会になりました。ありがとうございました。</p> <p>○今回、大変有意義な2日間を頂きました。ありがとうございます。内容のすばらしさはもちろん、それに加えてスケジュールの組み立てや配慮のきめ細かさなど、感嘆いたしました。</p> <p>○企画、準備、開催と大変お疲れ様でした。楽しい2日間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。</p> <p>○素晴らしい研修内容でした。自分の知らない知識が次々に飛び込んできたので、自分自身の勉強不足さを実感しました。次の研修もあれば是非参加したいです。</p>			

VI. 今後の活動予定

- ・「建築法規 過去問題集」、「建築法規 ワークノート」の編集
- ・2級建築施工管理技術検定 過去問題も含む
- ・今後の研究テーマは、「まちの中の建築法規」です。ご意見ご要望など、連絡ください。
- ・今年度の総会 長野大会より、法規分科会主査を神奈川県立藤沢工科高等学校 大木英生に代わります。8年間ありがとうございました。
- ・今後も活発な分科会活動に努めます。会員の皆様のご指導ご協力の程、よろしく願いいたします。

法規分科会メールアドレス【houki@hnkkk.org】

10. 構造分科会 活動報告

東京都立総合工科高等学校
小澤 誠志

1. はじめに

愛知大会総会以降の活動についてご報告いたします。

委員17名と研究会の分科会では一番の大所帯となっています。年5～6回程度、東京周辺で建築構造・建築構造設計の内容に関わる研究・協議を行っております。構造分科会の主査ですが、長野大会より神奈川県立藤沢工科高等学校 佐々木先生から、東京都立総合工科高等学校 小澤に交代いたしました。これからも構造分科会は、全国の工業高校発展のために尽力して参ります。

2. 分科会活動報告

(1)平成29年度 第4回分科会

日時：平成29年10月17日（火）

会場：中央工学校

内容：愛知大会の反省（意欲を高める建築構造～ジグソー法 授業展開の研究～）と長野大会のテーマ検討を行いました。また、中央工学校 王子キャンパスの建築現場見学をさせていただきました

①愛知大会反省

- ・参加していただいた先生方には意欲的に取り組んでもらえた。
- ・ジグソー法という手法の有効性や各校で取組む上での課題が見えたのではないかと思います。

②長野大会のテーマ

- ・材料実験を扱う内容で方向性を出した。
- ・教科書出版業者がDVDによる視覚教材を来年度に出版するという話を聞いたため、重ならない内容でできるのか、次回（12月8日予定）以降に再協議をすることにしました。平成31年度の夏季研究協議会に向けてつながるテーマにしていきたいと考えている。

③中央工学校材料実験室の見学

- ・夏季研究協議会も見越して、連携して行えないかと提案をさせていただきました。具体的な内容まで踏み込むことはなかったが、とても協力的な対応をしていただいた。

④中央工学校王子キャンパス整備計画現場見学

- ・清水建設の安中所長より、現場の概要説明及び基礎工事の現場説明をしていただいた。100年建築というテーマを基に高耐久コンクリートや被り厚さの増し打ちや、100年建築という名に恥じない施工を進めている。



写真1



写真2

(2)第5回分科会

日時：平成29年12月8日（金）

場所：若潮橋現場見学会（最寄駅 天王洲アイル）

内容：委員12名が参加し、若潮橋の下部工の現場見学をしました。JR線と近接しているため、24時間計測しながら施工を進めており。現在は第4期の橋台工事の施工中でした。この現場は運河が近く、塩害を押さえるためにエポキシ樹脂を塗装した青い鉄筋を使用しています。最近の土木構造物では多く採用されている。100年耐える構造物を作るのが主流になってきているため、このような鉄筋を使用している。値段的には塗装する分1.5倍ほど高くなるとのことでした。現在使用している仮橋は平成24年度に設置された橋で、仮の桁の上に覆工板を並べて舗装厚10センチ敷いたものであるため表面の傷みが激しく、二月に一回程度部分的な補修をしている等の話がありました。



写真3



写真4

(3)第6回分科会

日時：平成30年3月9日（金）

会場：浅野工学専門学校

内容：長野大会のテーマ決めと総会の発表内容及び平成31年度の垣研究協議会を見据えた打合せをしました。

①長野大会テーマ決め

- ・分科会テーマを「耐震・免振・制振～安全性を確保する居住空間～」とし、見てわかる授業や、安全性を高めるためのコンクリートの性質などについて、発表できないか協議をした。

②浅野工学専門学校施設見学

- ・平成31年度の夏期研究協議会を視野に入れ、浅野工学専門学校の施設見学もさせていただきました。



写真5



写真6

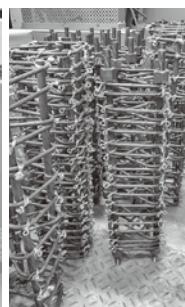


写真7

(4)平成30年度 第1回分科会

日時：平成30年5月23日（水）

場所：東京都立蔵前工業高等学校

内容：・平成30年度の構造分科会の役割分担の確認
・長野大会の構造分科会テーマに基づき、具体的な取組み内容の検討
・平成31年度夏期研究協議会の概略

(5)第2回分科会

日時：平成30年7月6日（金）

場所：東京都立橋高等学校

内容：前回の分科会で耐震・免震・制震の原理がわかる構造模型の制作をすることになりました。さらに、模型材料を100円ショップで購入できる材料を使用し、安価で簡単な構造模型を制作することをめざしました。

委員みんなで知恵を出し合って、模型を制作しましたが、免震の挙動がうまく表現できなかったため、次週、もう一度構造分科会を開催することにしました。また、東京都立葛西工業高等学校で模型の起振装置を所有しているということで、次回の分科会は起振装置を使用させていただくため、東京都立葛西工業高等学校で開催することにしました。

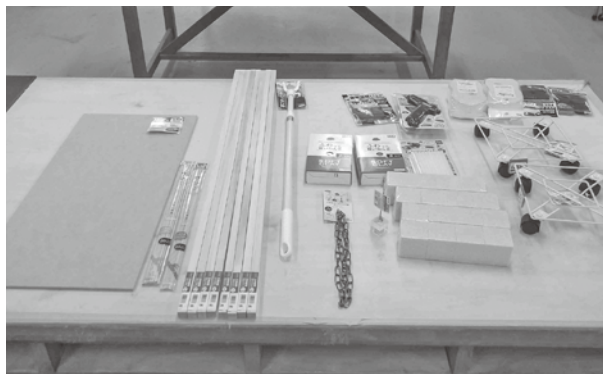


写真8

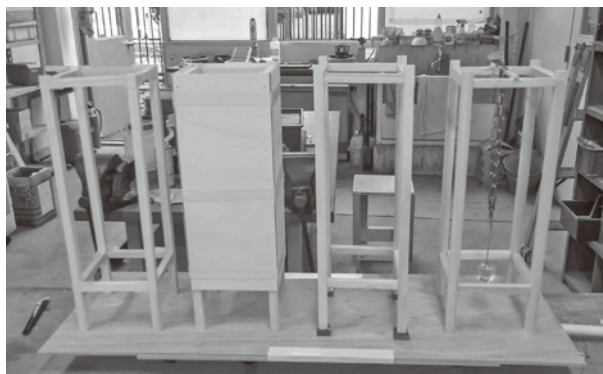


写真9

(6)第3回分科会

日時：平成30年7月13日（金）

場所：東京都立葛西工業高等学校

内容：前回は模型の起振は手動で行っていましたが、起振装置を使用させていただき、試行錯誤の結果、懸案だった免震の挙動を表現することができました。

(7)第4回分科会

日時：平成30年7月25日（水）

場所：東京都立葛西工業高等学校

内容：長野大会で実際に使用する模型材料、起振装置の梱包作業と長野大会会場への発送作業をしました。

3. 平成30年度 長野大会研究協議Ⅰ 構造分科会

日時：平成30年8月2日（木）～3日（金）

場所：ホテルメトロポリタン長野

参加者：20名（構造分科会委員7名を含む）

テーマ：「耐震・免震・制震

～安全性を確保する居住空間～」

今回の目的の1つとして、100円ショップで購入できる材料を使用し、安価で簡単な構造模型を制作することを目指しました。構造分科会委員が材料の購入から耐震・免震・制震の挙動を反映できるように、それぞれの装置を工夫し、アイデアの一案を提案しました。限られた時間の中で試行錯誤をしていただいた結果、参加して下さった先生から、アイデアを発表していただきました。いただいたアイデアは今後の構造分科会活動でまとめてみたいと思います。



写真10 研究協議①



写真11 研究協議②

11. 施工分科会 活動報告

千葉県立市川工業高等学校
林 祐 介

1. はじめに

施工分科会では、平成26年度から「建築施工」と関連付けた「実習」指導について研究主題を設定し協議を重ねてきました。昨年度は、鉄筋コンクリート造の躯体の墨出し実習を通して、測量技術の活用方法を生徒に理解させるとともに、その方法を習得させる実習の展開事例について協議しました。

今年度は、墨出した子墨を利用して、鉄筋を組み立てることを想定して、鉄筋組立て実習を題材に協議を進めてきました。鉄筋組立ての課題として、技能検定3級鉄筋施工「鉄筋組立て作業」の実技課題への取り組みについて協議しています。技能検定3級鉄筋施工は平成28年度に新設され、今年度3回目の実施となり、資格取得に向けて取り組む学校も増えてきております。そこで、実技課題の作業手順のマニュアルの作成を目指し、活動しております。

それでは、以下に千葉大会以降の活動を報告いたします。

2. 活動報告

(1) 平成29年度 第3回 施工分科会

期 日：平成29年12月11日（月）

会 場：神奈川県立磯子工業高等学校

愛知大会における分科会研究協議の反省とアンケート結果をふまえて、長野大会の分科会研究協議の内容及び、今年度における分科会の研究テーマの検討を行いました。

施工分科会の通年的な活動内容については、一昨年度の水盛り・遣り方、昨年度の墨だし実習というテーマから、施工順序に沿って、鉄筋組立実習をテーマとする方向で決定しました。

また、長野大会における分科会研究協議は、外部講師を招いて、講演を頂くこととしました。講師には木材加工（工芸）を専門とする富山大学名誉教授の小松先生を招く方向で調整を進め、講演内容についての検討を行いました。鉋の手入れや木材加工における安全教育など、複数の内容を候補として、講師と相談しながら、発表テーマを検討することとしました。

協議の最後に、会場校の施設設備を見学させていただき、教育課程や、授業展開における課題などについて情報交換をしました。

(2) 平成29年度 第4回 施工分科会

期 日：平成30年2月23日（金）

会 場：千葉県立京葉工業高等学校

前回の研究協議で決まった技能検定3級鉄筋組立て施工の実技課題について、分科会委員で課題に取り組み、組立てのポイントなどを確認しながら、組立て作業の資料作成のために実習及び協議をしました。

また、会場校の校舎建替え（新築）工事現場の視察をさせていただきました。現場は1階の鉄筋組立工事及び型枠建込み工事で、現場監督に説明を受けながらの視察となりました。



図1 鉄筋組立て実習



図2 研究視察

(3) 平成30年度 第1回 施工分科会

期 日：平成30年7月5日（木）

会 場：千葉県立京葉工業高等学校

最近では、無料動画サイト等に、建築現場における各種工事の施工状況等の動画が多数存在し、生徒の興味関心を高める材料として、また、教材としても十分活用できるものがあります。そのような教材（素材）を探すのは意外と時間のかかることです。授業で活用できる動画を紹介することも多忙化する業務の中で、会員の皆さまに少しでも役立つのではないかと考え、各委員が、建築施工の単元や項目ごとに、教材を探し、情報を共有していこうという意見があったので、授業で活用したい動画について検討しました。

また、長野大会に向けて最終的な資料の確認と、分科会の運営に関わる打合せを行いました。

3. 第68回東日本建築教育研究会長野大会 研究協議会報告

期 日：平成30年8月2日（木）

会 場：ホテルメトロポリタン長野

参加者：34名

テーマ：「環境の積極性」

～技能の可視化による実習指導～

講 師：富山大学 小松 研治 名誉教授

(1) 協議内容

「環境の積極性」というタイトルで具体的な内容は伝わらないと思います。小松先生は大学の講義における学生からの授業評価をもとに、作業工程や加工方法などの技能を模型等の形にして教材を作製しました。そのことが理解度に大きな影響するという「技能の可視化」という考え方をもとに、学習環境を整えていくことが、学生の理解するための手助けとなるという内容の講演をいただきました。

身の回りにあるもの、目に見えるものから色々な問題点・改善点が生まれるような問題点の発見ができる「痕跡からの発想」という内容の話から講演は始まりました。

一本の横線が描かれていたとしたとき、その線から読み取れることは何か。その線から山並みや水平線を想像するという答えではなく、フリーハンドで鉛筆を使用して書いた線ではないかと読み解く。そのようなものの見方ができる学生は非常に少ない。ものをつくり出す際には想像力、発想力を存分に発揮してほしいのは確かですが、「ものの痕跡」から具体的な技能を発想することも重要です。たとえば、木材の加工をしたときに、木の削りくずから、加工し始めなのか、仕上げの段階なのか、適切な道具の使い方ができているかなどの「痕跡」から「技能」を発想する。

そのようなものの見方「痕跡からの発想」を養うことが必要であり、大切なことの一つであることを説かれていました。

続いて「技能の可視化」に関する内容に移っていきました。

技能の可視化に関する事例は、木工具演習についてでした。例えば、のみの力のいれ具合を説明するのに、圧力試験紙を使用するなど、どこに力が入っているのか、目に見える形で生徒に説明したり、刃先の拡大写真等で、より具体的に生徒に提示します。実習の工程をいくつもの模型を作製しておくことにより、生徒自身が模型を観察し、加工の仕方を考えることが出来ます。また、生徒の能力によって進捗状況に差異が生じたとしても、模型をみて、前の時間にどんなことをしていたのかのフィードバックすることが出来る、そのような環境を整えることも大切なことなのです。授業に対して、教員、生徒が積極的に取り組むだけでなく、教材も一体となって学習があることを忘れてはいけません。家具デザインにおける授業では、加工・製作工程を細かい段階で表し、「もの」を介してどこがわからないのかを明確にし、課題解決にむけた活動がしやすくなるような手立てを用意する。また、見えなくなってしまう部分も見えるように、断面模型を作製するなど、できる限りの技能の可視化をつとめることで、生徒の理解につながるという講話をいただきました。講話の締めくくりこのような言葉が紹介されました。「教師は環境を変えることを通して、生徒に間接的に影響を及ぼすのですから、直接的には、環境が子供を教育するということになる。」この一文が、小松先生が実習の環境について考える上で影響を受けたそうです。

今回の研究協議をもとに各校でも教材研究をしていたら、この教材および協議内容が会員方々に役立つことを期待します、と講演を閉めました。



図4 協議会風景

(2) 参加者感想 (一部抜粋)

- ・実習などで感覚として教えていることを生徒が可視化して理解できる環境の大切さを知ることができた。
- ・生徒に対して教員ができることが、間接的なものもこんなにも多くあるということが大変勉強になりました。
- ・「見える化」された教材の数々に感動しました。人が環境をつくり、環境が人をつくるということを実感できた時間となりました。
- ・いつもの分科会協議とことなり、外部講師による講演で、違った視点、考え方で教科指導について考えることができてよかった。
- ・講師の方が持参された教材、教具の数々に驚きました。生徒がわかるための工夫、配慮が各種のアンケート結果からも裏付けされており説得力があった。
- ・教員の説明や板書よりも、生徒は教員のデモンストレーションや模型などにより理解を深めているというアンケート結果は、今後の授業に活かしたいと思った。
- ・講演の導入にあった「一本の線から読み取る」というものから、痕跡からの発想方法、可視化されたものから何が学べるのかを読み取る力が必要であることなど、教育的視野を広げることができた。
- ・施工研究という道具のつくり方、ものつくり方になりやすいのかと思っていたが、生徒指導についてとてもわかりやすく知ることができて良かった。
- ・模型等、目で見て可視化することの重要性を改めて確認した。教材を研究するだけでなく、広く環境を整えてあげることが生徒のために必要だと感じた。



図5 教材作品

5. おわりに

今年度、長野大会における分科会研究協議では、富山大学名誉教授の小松先生を講師に招いての実施となりました。これまでの施工分科会の実習指導に関する協議内容とは、異なる視点から実習指導の在り方について考えていただけたのではないのでしょうか。ご多忙の中、講演いただきました小松先生に感謝申し上げますとともに、分科会研究協議会に参加していただきました先生方や賛助会員の皆様にも感謝申し上げます。アンケート結果をふまえ、研究テーマを精査し会員の皆様にも役立つ資料が提供できるような分科会の活動をしていきたいと考えております。

現在、施工分科会は委員9名で活動しております。しかし、年数回の分科会の研究協議も、公務等で出張が困難な委員も多く、限られた委員で活動しているのが現状です。分科会活動を通して、他県の先生方との情報交換等、委員としての活動自体が有意義な研修の場となっております。建築施工や実習指導に関心の高い先生におかれましては、施工分科会にお力添えいただきますようお願いいたします。

12. 平成29年度 第36回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会

委員長 ト 部 寿々子

第36回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募状況

(1) 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28
55	53	52	50	3	3	47	48	3	3	5	2	0	0

2. 応募作品数

(1) 課題1

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外																	
						全日制		定時制		全日制		定時制															
H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28														
校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数														
46	113	45	121	43	108	43	117	3	5	2	4	39	99	41	111	3	5	2	4	4	9	2	6	0	0	0	0

(2) 課題2

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外																	
						全日制		定時制		全日制		定時制															
H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28														
校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数														
16	38	13	32	16	38	13	32	0	0	0	0	14	32	12	29	0	0	0	0	2	6	1	3	0	0	0	0

(3) 課題3

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外																	
						全日制		定時制		全日制		定時制															
H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28														
校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数														
24	56	27	60	23	55	25	57	1	1	2	3	22	52	24	56	1	1	2	3	1	3	1	1	0	0	0	0

(4) 課題4

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外																	
						全日制		定時制		全日制		定時制															
H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28														
校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数														
15	36	9	21	15	36	9	21	0	0	0	0	13	31	8	18	0	0	0	0	2	5	1	3	0	0	0	0

(5) 課題5

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外																	
						全日制		定時制		全日制		定時制															
H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28														
校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数	校数	作品数														
8	19	9	19	8	19	9	19	0	0	0	0	7	16	8	16	0	0	0	0	1	3	1	3	0	0	0	0

3. 各学校内における作品審査数の総計

(1) 課題1

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
1365	1239	1352	1227	13	12

(2) 課題2

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
391	342	374	339	17	3

(3) 課題3

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
515	671	551	670	4	1

(4) 課題4

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
73	75	56	70	17	5

(5) 課題5

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
36	26	33	22	3	4

4. 各課題別の応募総数と入賞者一覧

(1) 課題1

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
113	121	104	115	9	6

金賞

岐阜県立岐南工業高等学校 建築科 1年 長屋 百美

銀賞

栃木県立真岡工業高等学校 建設科 1年 小川 楓加

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 1年 服部 真央

宮城県白石工業高等学校 建築科 1年 高橋 凜

銅賞

静岡県立浜松工業高等学校 建築科 1年 森下 彩里

栃木県立真岡工業高等学校 建設科 1年 阿部 純香

入賞

愛知県立豊橋工業高等学校 建築・土木科 1年 林 茉莉那

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 1年 馬淵華すみ

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科 1年 斎藤 彩

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科 1年 塩澤 望夢

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科 1年 代田裕紀乃

群馬県立前橋工業高等学校 建築科 1年 高野 翔

群馬県立前橋工業高等学校 建築科 1年 高藤 颯人

群馬県立前橋工業高等学校 建築科 1年 眞下 味季

仙台市立仙台工業高等学校(定時制) 建築土木科 2年 千葉 龍多

(2) 課題2

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
38	32	32	29	6	3

金賞

愛知県立豊橋工業高等学校 建築科 2年 山本 芽依

銀賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 2年 齋藤 桃香

埼玉県立春日部工業高等学校 建築科 2年 大島 綺音

銅賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 2年 足立 紗也

栃木県立宇都宮工業高等学校 建築科 2年 櫻井 詞音

松山聖陵高等学校 建築科 2年 魚住 龍矢

入賞

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科 2年 織田 渚

愛知県立豊橋工業高等学校 建築科 2年 杉浦 丹歌

岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科 2年 大山 和彦

山梨県立甲府工業高等学校 建築科 2年 志村 遙稀

岐阜県立岐南工業高等学校 建築科 2年 中村華奈未

松山聖陵高等学校 建築科 2年 宮谷 昂規

埼玉県立春日部工業高等学校 建築科 2年 高橋 美結

(3) 課題3

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
56	60	53	59	3	1

銀賞

静岡県立浜松工業高等学校 建築科 2年 太田 空

銅賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 3年 内田 陸斗

静岡県立浜松工業高等学校 建築科 2年 藤原 綾乃

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 3年 加藤 智優

愛知県立碧南工業高等学校 建築科 3年 石垣 遼大

愛知県立碧南工業高等学校 建築科 3年 兵藤 和誌

入賞

愛知県立豊橋工業高等学校 建築科 3年 竹内胡遥梨

宮城県石巻工業高等学校 建築科 2年 佐々木あすか

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科 3年 増田 葵

埼玉県立春日部工業高等学校 建築科 2年 大島 綺音

宮城県石巻工業高等学校 建築科 2年 遠藤 悠

静岡県立沼津工業高等学校(定時制) 工業技術科 3年 高木 陸

(4) 課題4

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
36	21	31	18	5	3

金賞

松山聖陵高等学校 建築科 2年 池田 勇介

銀賞

松山聖陵高等学校 建築科 3年 三好 玲生

銅賞

松山聖陵高等学校 建築科 3年 中矢 桂太

山梨県立甲府工業高等学校 建築科 2年 濱 大智

愛知県立愛知工業高等学校 建設科 3年 向家 慶一

入賞

愛知県立愛知工業高等学校 建設科 3年 原田幸太朗

埼玉県立春日部工業高等学校 建築科 2年 伊藤 拓翔

愛知県立愛知工業高等学校 建設科 3年 平野 純也

(5) 課題5

応募総数		加盟校		加盟校以外	
H29	H28	H29	H28	H29	H28
作品数	作品数	作品数	作品数	作品数	作品数
19	19	16	16	3	3

金賞

松山聖陵高等学校 建築科 3年 小山 勇斗

銀賞

栃木県立真岡工業高等学校 建設科 3年 武井 杏奈

埼玉県立春日部工業高等学校 建築科 3年 伊勢 桃香

愛知県立佐織工業高等学校 建築科 3年 上家 大季

銅賞

岐阜県立可児工業高等学校 建設工学科 3年 小池 久遠

入賞

山梨県立甲府工業高等学校 建築科 2年 後藤 拓実

山梨県立甲府工業高等学校 建築科 2年 米倉 颯太

岐阜県立可児工業高等学校 建設工学科 3年 堀江 愛佳

松山聖陵高等学校 建築科 3年 羽藤 潤

埼玉県立春日部工業高等学校 建築科 3年 石垣 彩花

松山聖陵高等学校 建築科 3年 品尾 智子

5. 審査について

(1) 賞の選出

- ①各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞銅賞入賞とする。
- ②各課題定時制課程参加作品から入賞以上を選出する。

(2) 審査方法

①一次審査

- ア. 審査は委員全員で行う。
- イ. 原図を使用する。
- ウ. 各課題参加数の1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- エ. 審査基準は、各課題の観点に従う。
- オ. 作品を相対的に比較する。

②二次審査

- ア. 審査は委員全員で行う。
- イ. 表題欄をカットする。
- ウ. 複写図面を使用し、チェックを書き込む。
- エ. 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。

③最終決定

- ア. 最終決定を投票で行う。

(3) 課題別審査の観点

①課題1「軒先マワリ詳細図」

- ア. 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ. 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端までが均一な太さ・濃さであるか)
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. その他
松丸太に関して
・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。
※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。
野縁に関して
・位置は軒桁中心から測られているか。
天井に関して
・位置が製図例2-6に基づいているか。
線の使い方に関して
・下書き線が濃すぎないか。
・仕上げ線(断面線)が極端に太すぎないか。

②課題2「木造平家建専用住宅」

- ア. 敷地の配置、外構計画に工夫があるか。
- イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書3章に準じているか)
- ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面図と異なっていないか)
- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)
- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)
- カ. 図面相互に違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しい

- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
- ・床の仕上げを表現していないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。

立面図に関して

- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・平面図に記された切断線の位置とのくい違いがないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。
- ・ロフトの天井が極端に高くないか。

屋根伏図に関して

- ・水勾配や寸法が記入されているか。
- ・屋根仕上げに用いた材料名称が描かれているか。
- ・断面線の表示がされているか。

③課題3「木造2階建専用住宅」

- ア. 計画性を重視する。
- イ. 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ. 構造的に無理がないか。
- エ. 製図規約に配慮しているか。
- オ. その他

設計主旨に関して

- ・主旨と計画に違いがないか。

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。
- ・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
- ・外構計画において高低差に配慮しているか。
- ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に間違いがないか。
- ・平面図に家具が記入されているか。
- ・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
- ・平面図に記された階段の段数は正確か。
- ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。

立面図に関して

- ・平面図とのくい違いがないか。
- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・切断位置が開口部を含む位置であるか。
- ・形状が不適切でないか。(異常に高すぎる、低すぎる)
- ・高さに関する寸法の記入があるか。

④課題4「木造平家建専用住宅」(CAD製図)

- 注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。
- イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書3

- 章に準じているか)
- ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面図と異なっていないか)
- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)
- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)
- カ. 図面相互にくい違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他
 - ・ロフトを計画した場合は、それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。(CAD特有の表現のままでないか)

⑤課題5 「木造2階建専用住宅」

(プレゼンテーション作品)

- 注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)
- ア. プレゼンテーション・表現を重視する。(プレゼンテーションとつくりだされている作品が一致しているか)
 - ・パース、模型、説明、着色等で判断する。
 - イ. 製図規約については重視しない。
 - ウ. その他
 - ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。
 - ・表面に氏名等を記入しない。

6. 審査講評

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は、線の使い分けが大変素晴らしくメリハリがあり、特に太線が美しい作品でした。また、文字も整っており、美しい作品でした。

金賞以外の図面についても、全体的に丁寧に描かれている作品が多く見受けられたが、線が弱々しく見える作品もありました。また、図面は美しいのに、単純なスケールの読み間違えが多数あり、非常に残念でした。

【アドバイス】

次年度は、スケールの読み方を今一度確認していただき、基本的なことを習得してください。併せて、図面の汚れも目立ちましたので、図面をきれいに美しく仕上げのための努力をしてください。

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞図面は、造園計画をしっかり行っており、表現力に優れ、細部までこだわっている作品で、作図力も優れている作品でした。

金賞以外の図面についても、図面がきれいで発想がよく、庭を歩くことが楽しめそうな図面や丁寧に作図されている作品もある一方で、屋根仕上げ材料の名称や水勾配がない作品やロフトの位置を平面図に記載していない作品も多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、要項の注意事項を確認し基本的なことを理

解していただき、計画性のある表現力の高い作品を期待します。

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞図面は、ありませんでした。あともう一步という作品ばかりでした。

金賞以外の図面についても、作図力があり、表現力も高い作品も見受けられたが、階段の表記や手すりそして、必要な柱が記載されていない作品も多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、作図力の向上だけでなく、道路との関係性や空間的な広がりや繋がり等を考えた作品を期待します。

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞図面は、CADの特性を活かしつつ工夫をし、かつ、根気強く描かれ、総合的に判断した作品でした。ただ、漢字間違えや平面図が庭に消されるくらい細かく表現されている点は、手が込んでいる分、少し勿体ないと感じる作品でした。

金賞以外の図面についても、CADならではの作品や屋根を工夫した作品が見られた一方で、CADに頼り過ぎて基本的な作図力が乏しい作品も見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、基本的な作図を心掛け、計画性のある作品を期待します。

(5) 課題5 木造2階建専用住宅

(プレゼンテーション作品)

金賞図面は、コンセプトがきちんと表現できている作品で、プランがよく考えられており、全体的にしっかりとまとまった作品でした。また、パースの表現も取り入れ、わかりやすいプレゼンテーション作品でした。

金賞以外の図面についても、ダイナミックで美しい作品や空間の使い方を考えている作品や、全体的にまとめられている作品が見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、プレゼンテーション作品ならではのプランを考え、様々な挑戦をした作品を期待します。

平成30年4月2日

製図コンクール運営委員長 卜部 寿々子

13. 資格取得推進委員会 活動報告

群馬県立高崎工業高等学校
石井直樹

1. 「2級建築施工管理技術検定」試験制度について

A：学科試験の内容

「適正な施工確保のため技術者制度検討会」とりまとめを受けて、平成30年度から2級建築施工管理技術検定学科試験の受種別（建築・躯体・仕上げ）は廃止され、共通の試験として実施されています。

B：実地試験の内容

実地試験では、建築・躯体・仕上げに関する共通問題（受検種別の実務経験に関する記述問題を含む）とし、受検種別ごとの専門知識に関する問題が出題されます。

解答形式は全て記述で、変更ありません。

また、建設業振興基金様より、平成29年12月25日に下記の連絡をいただいています。

記

国土交通省では、下記内容の検討を実施していただいております。

学科合格者（1・2級とも）は、技士補とし、有効期間撤廃を行う。（但し、5年ごとの更新講習は必要。）

平成30年2月8日に確認したところ、上記の実施には2～3年の検討期間が必要だと思われるとの説明でした。

C：力学問題について

平成30年度前期試験の力学の問題では、平成13年度の「建築施工技術検定試験」の問題に類似した内容の出題がされております。

この事からも、力学の問題は過去問題を集中的に指導する事が大切だと思われます。

2. 設計3団体の提案について

平成30年6月5日（火）に設計3団体の共同提案を実施。

下記に、日刊建設新聞社の報道内容を記します。

記

日本建築士事務所協会連合会（日事連、佐野吉彦会長）、日本建築士会連合会（士会連合会、三井所清典会長）、日本建築家協会（JIA、六鹿正治会長）は5日、自由民主党建築設計議員連盟（額賀福志郎会長）に建築士資格制度の改善を共同提案した。東京都内で会見した3会の会長は共同提案内容の詳細を詰めるため、合同ワーキンググループ（WG）を設置すると発表した。

共同提案で挙げた資格制度の運用改善事項は、▽建築士試験の受験前に求められる実務経験の柔軟な運用▽建築士試験の受験資格のうち実務経験として認める対象範囲の拡大（大学、工業高校で建築教育に携わる者、官公庁で建築行政に携わる者などに拡大）▽学科試験合格者が受験できる製図試験の受験回数（2回）の廃止（無制限へ）▽試験内容の見直し（CADによる試験の導入）の5項目。このほかに建築士が関与する業務の明確化（安全上重要な改修の設計・工事監理、耐震診断など）も求めた。

都内で開いた会見で3会長は、建築士資格制度の改善

を求めた理由について、1級建築士14万人のうち50歳超が6割以上を占め、高齢化が進む一方、学科試験の受験者が2007年から16年までに4割減少したと説明。佐野会長は「地域の発展、日本全体の成長の力であるインフラ整備を支えるために、若い世代が建築界に入る環境を整える必要がある」と法改正の意義を強調。六鹿会長は「若い人に資格を取りやすい環境をつくり、将来を開いていく」、三井所会長も「3年前の建築士法改正時から、積み残した課題と考えている」と述べた。

その上で佐野会長は「国が推進する担い手の確保や働き方改革、国土交通省が検討中の業務報酬基準（告示15号）の改正の流れとも一致している。自民党建築設計議連でもおおむね好意的に受け入れられた。国交省も同じ見解だと思う」と明言。議連、国交省との意見交換を経て、3会で設置する合同WGで詳細を詰め、早ければ来年の通常国会に改正案を提出できるよう環境を整えたいとした。

受験資格の実務経験として認める対象範囲の拡大については、佐野会長が「耐震偽装事件を受け、08年の改正建築士法で実務経験の範囲が（設計・工事監理の関連業務に）限定されたものを広げるわけだが、反省を忘れたわけではない。08年以前は範囲がもっと広がった」と述べ、建築士に求められる仕事が多様化する中で必要とされる経験との認識を示した。建築士が関与する業務の明確化については、三井所会長が「これからストックを重視する時代になり、より専門的知見が求められる」と主張。六鹿会長は「建物の安全・安心を担う建築家、建築士の果たす社会的責任が明確になる」と強く訴えた。

3. 「1級建築士」の実務資格要件（建築実務の内容）の緩和に関する要望活動について

A：日本機械土工協会様との意見交換会について

平成29年11月24日（金）に下記内容について意見交換会を実施しました。

研究者・教育者の「1級建築士試験」受験認可要望について、一般社団法人 日本機械土工協会 常務理事 保坂益男様と、同協会 関東支部 事務局長 清水英紀様に活動へのご理解・ご協力を賜る様にお願ひしました。

訪問者は下記の3名です。

記

- 1、全国高等学校建築教育連絡協議会
事務局長 小島聡先生
- 2、元本研究会 資格委員長
岡田義治様（栃木県建築士会 名誉会長）
- 3、資格取得推進委員会
委員長 石井直樹

B：国土交通省様によるヒヤリングへの参加について

平成30年9月20日（木）国土交通省 住宅局 建築指導課様による「建築士資格に係わる実務経験のあり方に関するヒヤリング」に下記の3名が参加してきました。

記

- 1、栃木県立宇都宮工業高等学校

建築デザイン科 五十嵐忠彦先生

2, 東京都立蔵前工業高等学校 建築科 小林克也先生

3, 群馬県立高崎工業高等学校 建築科 石井直樹

C：国土交通省様への要望書提出について

平成30年10月4日(木)国土交通省 住宅局 局長 石田 優様に「1級建築士試験」の研究者・教育者の受検認可要望書を提出しました。

要望書は全国高等学校建築教育連絡協議会 会長 平田誠一様(東京都立総合工科高等学校校長)名で要望しました。

訪問者は、平田誠一会長と石井で、一般社団法人 日本機械土工協会 事務局長 保坂益男様にも同行していただきました。

下記に要望書の内容を記します。

記

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、建設産業教育に、ご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

平成29年度より建設産業界への若手の入職促進と定着を目的に技術検定試験の政令改正が行われるなど、建設産業の担い手確保に向けた取り組みがなされています。一方、「建設産業政策2017+10」では、「技術者の育成者(指導者等)を確保する」と提言されています。

教える側の人材を確保し、技術力を向上させることにより次代に誇れる産業となり、建設業界のさらなる発展に繋がるものと確信しております。

この点、平成17年度の構造計算書偽装事件以降、一級建築士試験の受験資格のうち実務経験として、研究者(大学教員)及び教育者(専門学校教員・高等学校教員)としての各経験がその対象から外されております。

しかし、その結果、研究者・教育者の資質向上が図れず、高い質の教育を学生・生徒に提供することにつき支障が出始めており、高い質の教育を学生・生徒に提供することにつき、将来的に強い危惧を抱いております。教える側の力量がなければ学生・生徒の技術力を向上できないことは、上記のとおりです。

現に、平成30年6月5日に、日本建築士事務所協会連合会(日事連、佐野吉彦会長)、日本建築士会連合会(士会連合会、三井所清典会長)及び日本建築家協会(JIA、六鹿正治会長)の三団体が、自由民主党建築設計議員連盟(額賀福志郎会長)に対し、建築士資格制度の改善を共同提案しておりますが、その中でも、建築士試験の受験資格のうち実務経験として認める対象範囲の拡大(大学、工業高校で建築教育に携わる者、官公庁で建築行政に携わる者などに拡大)が挙げられております。

高等学校学習指導要領解説 工業編(平成22年1月文部科学省)第2節 工業科の目標で、将来の工業技術者としての倫理観を養うことが強く求められていることから、安全な製品や構造物などのものづくりをするために必要な基礎的・基本的な知識・技術を確実に身に付けさせ、技術者としての倫理観に基づいて課題の解決に取り組む態度を身に付けさせる指導が実施されております。

つきましては、若年者教育の質を向上させる観点から、建築士法等の関係法令を見直し、「一級建築士試験」の受験資格のうち、研究者(大学教員)及び教育者(専門学校教員・高等学校教員)としての各経験を実務

経験として認めていただきたく、お取り計らいのほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

4. 「木造・2級建築士」早期受検の要望書提出について

全国高等学校建築教育連絡協議会 会長 平田誠一様(東京都立合工科高等学校長)のご理解・ご協力を賜り、全国高等学校建築教育連絡協議会 前事務局長 小島聡様(千葉県市川工業高校)のご尽力により、平成29年12月11日(月)に国土交通大臣 石井啓一様(担当課：国交省住宅局建築指導課)宛てに「木造・2級建築士試験」の早期受検(実務経験0年)が可能となるよう、建築士法等の関係法令の見直し検討を依頼する陳情書を提出していただきました。

(卒業年の7月に学科試験の受検が可能になるように要望)

下記に要望書の内容を記します。

記

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、建設産業教育に、ご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、平成26年9月より「適正な施工確保のための技術者制度検討会(国土交通省)」において議論が重ねられている「受験機会の拡大や試験体系の合理化で若い受験者を増やし、建設業界への若手の入職促進と定着」を図ることは、建設産業全体の問題であり、施工職種だけでなく設計業務においても同様であると認識します。

また、在学中に受験できる国家資格の受験指導は、生徒たちへの直接的な学習意欲の喚起と共に建設産業界への入職促進と定着に結びついています。

つきましては、「二級・木造建築士試験」の早期(実務経験0年)の受験が可能となるよう、建築士法等の関係法令の見直しをお願い申し上げます。

5. まとめ

A：2級建築施工管理技術検定試験について

平成24年度に「2級施工管理技術検定試験」の試験制度について公益社団法人 全国工業高等学校長協会 理事長名で試験制度の緩和を国土交通省 土地・建設産業局 建設業課に要望し、A：学科合格の有効期間の延長(6年が12年に延長)、B：指定学科受検の廃止(普通高校の生徒も受検可能に)、C：受験地の増加(全国13会場から21会場に)、D：受検年齢の引き下げ(17歳から受検可能に)、E：学科試験の一本化(建築・躯体・仕上げ問題の統一)等を実現していただきました。この結果、受検者・合格者共に増加しています。

B：1級建築士試験について

「1級建築士試験」は、平成11年度の学科試験受検者数：57,431名をピークに、平成30年度の学科試験受検者数は25,678名で半減しています。

(近年は、右肩下がりで減少しています)

このままでは、建設業界の発展は考えられません。このことを解決する為にも教育者による指導をより一層充実し、若年者の受検指導を強化する必要があると思います。

現在要望している、1級建築士試験の「建築士法の改定」が認められ、若い先生方の受検が可能になる事が今後の建設業会の更なる発展につながるものと確信しております。

14. 北海道の工業高校について

北海道室蘭工業高等学校
南 一臣

○全道高等学校工業科設置校一覧

北海道札幌工業高等学校	北海道苫小牧工業高等学校
北海道札幌琴似工業高等学校	北海道札幌国際情報高等学校
北海道函館工業高等学校	北海道名寄産業高等学校
北海道小樽未来創造高等学校	北海道富良野緑峰高等学校
北海道滝川工業高等学校	北海道留萌高等学校
北海道旭川工業高等学校	北海道紋別高等学校
北海道北見工業高等学校	北海道美唄尚栄高等学校
北海道釧路工業高等学校	北海道科学大学高等学校(私)
北海道帯広工業高等学校	旭川実業高等学校(私)
北海道室蘭工業高等学校	

現在北海道には工業科を有する学校が19校ある。

(公立17校、私立2校)内訳は、工業科のみの設置校が10校、商業科等との併置校8校、総合学科1校となっている。

近年の少子化に伴い学校・学科の再編が進み、規模が縮小傾向にある。

以上の中で建築に携わる13校にて北海道建築研究会を組織して活動している。会の主な活動は、道内の建築教育についての協議・研究の他、「高校生ものづくりコンテスト木材加工部門北海道予選会」、「北海道高校生建築デザインコンクール」、「北のジュニア・オープンデスク」、「日本建築学会北海道支部巡回講演」等を外部機関と連携を図りながら実施している。

以下に各校の概要と学科の特徴ある取り組みを簡単に紹介する。

○各校の紹介

1. 北海道札幌工業高等学校 全日制・定時制 建築科

平成28年に創立100周年を向かえた歴史と伝統のある工業高校である。現在全日制は機械科、電気科、建築科、土木科の4学科8間口、定時制は機械科、電気科、建築科の3学科3間口である。

特徴ある取り組みとしては、道教委の「夢と活気あふれる高校づくり推進費事業プロフェッショナル・ハイスクール」や文科省の「目指せスペシャリスト(スーパー専門高校)」の指定を受けて北海道ならではの研究を行ってきた。

毎年、近郊の中学生を対象に、本校校門前にある花壇のデザインコンテストを実施し、1位の作品については実際に施工している。

高校生ものづくりコンテスト木材加工部門北海道地区予選会では過去に5連覇するなど、強豪校であるとともに北海道高校生建築デザインコンクールにおいても数々の入賞を果たしてきた。

2. 北海道函館工業高等学校 全日制・定時制 建築科

1911年に設立した伝統と歴史ある道南圏唯一の工業高校である。校訓である「自主創造」のもと、未来のスペシャリストになれる人材の育成に努めている。現在全日制は電子機械科、建築科、工業化学科、環境土木科、電気科、情報技術科、の6学科6間口、定時制は電

子機械科、電気科、建築科の3学科3間口である。

建築科の特色としては、学校設定科目の「建築応用学」にて、地元の建築・文化を知り郷土を愛する心を育むための「函館の建築史」、建築に係わる様々な問題について幅広く学ぶ「地球環境」、建築・インテリア学習について反映させるための「人間工学」等を取り扱い、幅広く建築・インテリアについて学ばせている。

資格取得や部活動も盛んで、特に運動系は多くの部活動が全道、大会に毎年出場を果たしている。

3. 北海道小樽未来創造高等学校 全日制 建設システム科 定時制 電気・建築科

平成30年度より北海道小樽工業高校と北海道小樽商業高校が統合し、北海道で初めての単位制職業高校となった。全日制は、機械電気システム科、建設システム科、流通マネジメント科、情報会計マネジメント科の4学科4間口、定時制は電気・建築科の1学科1間口である。

地元の建造物の歴史的価値を学ぶことを狙いとして北海道建築士事務所協会小樽支部の協力を得て、歴史的建造物の見学会や「小樽らしい建物」をテーマに卒業設計を行っている。また、小樽は職人の町ということもあり、小樽職人の会と協力して駅のシンボルである「銭キューブ」の製作を行った。定時制では社会人対象に市民公開講座(木工)を開催して椅子やサイドテーブルの製作をしている。おたる技能フェスティバルでは、来場した子供に本立てなどの製作補助を生徒が行うなどの活動も行っている。

4. 北海道旭川工業高等学校 全日制 建築科

定時制 建築・土木科

開校は昭和16年であり、現在は全日制が工業化学科、建築科、土木科、電気科、情報技術科、電子機械科、自動車科の7学科7間口、定時制が電気科、建築・土木科の2学科2間口である。

「信頼される人になれ」の校訓のもと、豊かな人間性と広い視野を持ち、進んで社会に貢献する心身ともに健全な工業人を育成している。

文科省の指定で平成16年から18年まで「日本版デュアルシステム」(長期の職業訓練)を行い、その後も継続して「旭工版デュアルシステム」として希望者に4週間の就業体験を行っている。派遣先は現場管理や技能職である。参加したほとんどの生徒が専門的な技術を生かせる企業へ就職した。受け入れ企業の要請でその会社に就職した生徒も多数いる。

部活動も活発で多くの部が全道大会に出場している。

5. 北海道北見工業高等学校 全日制 建設科

本校は、昭和39年に北見柏陽高校から工業科を分離独立し、網走管内唯一の道立工業学校単地校として開校した。現在は、電子機械科、電気科、建設科の3学科3間口である。

「自主友愛」の校訓のもと、人を思いやる優しい心を

持ち、自主自立の精神と創造的で逞しく実践力に満ちた工業人の育成を目指し、日々の教育活動を行っている。

建設科では、希望と適性により2年次より「建築コース」と「土木コース」に分かれて学習する。特色ある実習の取り組みとして、原寸大での小屋組、軸組模型の作製（工事測量→基礎・土台組→小屋組）を行っている。

6・北海道釧路工業高等学校 全日制 建築科

昭和14年、北海道庁釧路工業高等学校として創立され、現在は全日制が電子機械科、電気科、建築科、土木科、工業化学科の5学科、定時制は機械科、電気科の2学科となっている。

「誠実・勤勉」の校訓のもと頭を使い・体を動かし・心で感じる人間を育てている。

建築科では、児童科学施設や地場産業イベント「メイド・イン・くしろ」にて、来場した子供達に木育活動を行っている。部活動も盛んで、特に運動系は多くの部活動が全道、全国大会に毎年出場を果たしている。

7・北海道帯広工業高等学校 全日制 建築科

本校は、昭和39年より続く伝統ある専門高校である。現在は、電子機械科、建築科、環境土木科、電気科の4学科4間口である。

校訓「創造実践・協同責任」のもと、自主自立の精神と人を思いやる心を持ち、創造的で逞しく実践力に満ちた工業人を育成する教育活動を行っている。

建築科では、外部機関と連携した現場見学会や実習を多く行っている。夏休みには小学生を対象に親子ものづくり教室を開催し、建築科に興味を持って貰う機会としている。

8・北海道室蘭工業高等学校 全日制 建築科

本校は昭和16年に北海道庁立室蘭工業高等学校として設立された。現在は、環境土木科、電気科、建築科、電子機械科、情報技術科の5学科5間口である。

「自主協同」の校訓を基に中堅技術者の育成を目指している。特色ある取り組みとしては、学校祭や体験入学において地域の子供達への木育活動や、地域住民参加型の公園リニューアル事業への参加などがある。

9・北海道苫小牧工業高等学校 全日制・定時制 建築科

本校は、大正12年より続く伝統ある工業高校である。創設以来、工業都市苫小牧の発展とともに「質実剛健」の校訓に則り工業技術者の育成に努め、多くの卒業生は北海道を始め全国で活躍している。全日制の設置学科は土木科、建築科、電子機械科、電気科、環境化学科、情報技術科の6学科であり、北海道最大規模の敷地面積の誇る工業高校である。定時制課程には、機械科、建築科の2学科がある。

建築科では、苫小牧市総合政策部まちづくり推進室、建築大工・塗装技能士会と連携し、苫小牧まちなか再生総合プロジェクトとして苫小牧駅周辺の活性化に向けた取り組みを行っている。

部活動も盛んで、特に運動系は多くの部活動が全道、全国大会に毎年出場を果たしている。

10・北海道札幌国際情報高等学校 全日制 理数工学科

本校は、平成7年に設立された、学科集合型高校である。普通科2間口、国際文化科2間口、理数工学科1間口、グローバルビジネス科3間口よりなる。

校訓「誠実・友愛・創造」のもと、世界の人々から尊敬されるグローバルシチズンとしての日本人の育成を目標としている。

理数工学科のコンセプトは、3年間学んだ後、理工系の大学・大学院へ進学し、将来のエンジニアや研究者をめざす人材の育成としている。幅広い理工系分野の基礎（機械、電気、建築）について、一般的な学科のように学び、普通教科の充実により国公立理工系大学へ進学できる学力を付けることができる。

建築分野に関しては、北海道建築士会の住教育出張講座を開催し、実習用間取りキットを用いた住教育の実践授業を行っている。

11・北海道名寄産業高等学校 全日制 建築システム科

本校は、平成21年に北海道名寄光凌高校と北海道名寄農業高校の統合により、道内初の産業キャンパスによる職業学科集合型の専門高校として開校した。

農業、工業、家庭に関する職業学科で酪農科学科、電子機械科、建築システム科、生活文化科の4学科を有し、2つの広大なキャンパス（光凌キャンパスと名農キャンパス）を活用して充実した専門教育を展開している。

高校生ものづくりコンテスト全国大会木材加工部門北海道地区予選会や北海道高校生建築デザインコンクールにおいて数々の入賞を果たしてきた。

12・北海道留萌高等学校 全日制 電気・建築科

平成30年度より、前身の北海道留萌千望高校と北海道留萌高校（普通科4間口）が統合し、北海道留萌高等学校となった。単位制普通科、電気・建築科、情報ビジネス科の3科6間口である。

電気・建築科ではコース制を採用しており、2年次より電気コース、建築コースに分かれて学習を行う。

課題研究で「太陽光パネルを設置したゴミステーション」を作成した際には、太陽光パネルを電気コースが担当し、建築コースがゴミステーション本体を施工するなど連携し、学科の特性を生かした取り組みを行っている。

13・北海道美唄尚栄高等学校 全日制 総合学科（デザイン系列）

本校は平成23年に北海道美唄高校と北海道美唄工業高校が統合し、総合学科の高校として開校した。普通科・農業科・工業科・商業科・家庭科の各専門教科を学ぶことができる空知管内唯一の総合学科校である。

校訓「志高く未来を拓け」には、厳しい社会の中でたくましく生きる力を培うため、志を高く掲げ、自らの強い意志と精神を身に付け、自己の未来を切り拓く力を持ち、夢を実現することへの願いが込められている。建築に関する科目は主に、「メカトロ・エンジニア系列」、「デザイン系列」に属しており、インテリアエレメント生産、工業技術基礎、課題研究を設定科目として扱っている。

15. 山梨県報告

山梨県立甲府工業高等学校

菅 沼 雄 介

1. 山梨県立甲府工業高等学校 全日制 建築科

本校は大正6年に創設され、昨年平成29年度に100周年を迎えた。産業界に多くの技術者を送り出し、その活躍は各分野で高い評価を得ている。現在、機械・電気・電子・建築・土木の5科の生徒は、充実した施設・設備を活用して、学習に部活動に励み、有意義な学校生活を送っている。「質実剛健」を校訓とした伝統的な校風は、創立当時から今日まで引き継がれ、技術者である前に一人の確固たる人間となるようにと教育の理想を抱いている。



平成9年5月、県内工業教育の中心施設としての新しい時代に対応した教育環境・施設を備えた新校舎が完成した。今までの伝統・校風を一層発展させるとともに、社会の技術革新にも対応できる多様な機能を備えた近代的な施設であり、新時代を切り開いていく生徒の個性や能力を十分に伸ばすことのできる快適な教育環境が整備された。

平成29年度より平成33年度までの5年間、平成32年度新設の専攻科も含め、文部科学省の指定事業スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)の指定を受けた。研究開発課題名は「数値制御ロボット技術」を通した、地域産業を支え、地域創生を創造する。技術者の育成である。

「第13回若年者ものづくり競技大会」(厚生労働省・中央職業能力開発協会主催)競技種目「木材加工」において、全国より25名の選手が出場するなか見事銅賞を受賞した。課題は、花台の製作だ。原寸図の作成、ホゾ、ダボによる加工、角度を持った接合部の組立などの出来映えが競技ポイントである。当日公表される寸法部分があり、応用力も必要である。

技能検定にも力を入れており、「建築大工」・「家具製作」・「鉄筋施工」に挑戦させている。昨年度は建築大工2級に2年生1名合格を得た。デザイン系や技能系、生徒の持てる能力を伸ばす教育に取り組んでいる。



2. 山梨県立富士北稜高等学校

総合学科 建築デザイン系列

本校は、前身の北富士工業高校・吉田商業高校を統合し、平成16年4月に開校した総合学科高校である。校訓は「明日を拓き 未来を創る」であり、「地域の発展に貢献できる人材を育成する」ことを目標としている。生徒は1年次後期より、6つの系列(教養・福祉健康・総合ビジネス・電気情報・機械テクノロジー・建築デザイン)に分かれて学習し、各分野の専門的知識・技術を身に付け巣立っていく。進路はおよそ半分の生徒が地域の企業へ就職をし、地域を支える人材を育成している。

建築デザイン系列では、昨年度は、就職希望者100%の内定率を得ることができました。また、創立15年目を迎え更に技能技術の習得、資格検定の取得に励んでおります。資格についてはレタリング検定、CAD検定、大工技能士、品質検定などの資格取得、製図コンテストや各種コンペに入賞を目指して努力、奮闘しています。



建築デザイン系列の目標としては、図面をよみ、かくことができるような基礎的学力を身に付けさせること。また木工工具を使いこなし伝統技術の大切さを知る工業技術者の育成。礼儀正しく、勤労意欲に富む生徒、地元へ貢献、地域に根ざした将来のスペシャリストの育成に心がけています。特に資格取得についてレタリング検定

は、生徒が集中し良くやり受講希望者も多く、人気もあります。大工技能士は外部講師としてマイスターの大工さんに指導をお願いしており3級に止まらず2級を目指しております。

3.山梨県立甲府工業高等学校

定時制建築科・専攻科建築科

本校は昭和22年に山梨工科学校に電気科が設置され、昭和25年に甲府工業高校城北分校として山梨大学内に設置されたのち、昭和31年に本校併設となりました。

翌昭和32年に定時制建築科が設置されました。その後の建設ブームの時代には建設業に就労した普通高校等の卒業生への基礎教育の一環として、建築科の科目のみを履修する専科生が増大したことなどもあり、昭和45年に県内の建設業関係者からの要請等の結果、高等学校卒業生に対する夜間制の建築教育機関として、専攻科建築科が設置されました。

本校では全日制と同じく、その前身である大正6年設置の市立甲府工芸学校の校訓である「質実剛健」、戦後の復興期に甲府工業高校を発展させた校長による信条「技術者となる前に人間となれ」に基づき、さまざまな教育活動を展開してきましたが、近年ではこれらに加え、「地域の希望となり、未来となれ」という目標を掲げ、全定ともに地域産業を支える工業技術者の育成を目指し、教育活動を展開しています。

現在は高等学校卒業を目指す本科には機械科・電気科・建築科の3科が設置され、学年次3クラス、12クラスが設置されています。

本科は、単位制への移行をした後、平成29年度より工業科一括募集となりました。本科1年次生は、前期の学習活動をおして所属する科を選択し、2年次より各科ごとのクラスとなります。

本科建築科では、ひとりひとりの生徒にきめ細やかに接するように心がけており、資格取得等についてもそれぞれの生徒の希望等に応じる形での指導を展開しています。建築の授業の中では、建設業に従事している生徒から現場の様子を聞いたり、調べてきたことを発表したりなど、学ぶ楽しさや知る喜びを感じられる授業をおこなっています。

また、キャリア教育の一環として、本県事業を活用した建設系技能者による大工作業や量制作などの体験学習活動も実施しています。

専攻科建築科は2クラス設置され、2年間の学業を修了した後は、実務経験なしで二級建築士試験の受験資格を得られる山梨県唯一の教育機関として認定されています。



16. 新潟県報告

新潟県立新津工業高等学校
中村和史

1. 新潟県立新津工業高等学校 全日制

建築科建築コース

本校は昭和14年に新潟県立新津工業学校として開校認可され、修業年限5年、機械科、電気科、応用化学科を募集。その後、応用化学科は工業化学科と改称、昭和24年4月に土木科、建築科が新設されました。また、建築科は昭和59年4月に建築設備コース1学級が新たに設置され現在2学級の募集となっています。

教育目標は、「平和で民主的な社会の形成者を育成することを目的として、豊かな人間性と健やかな身体を育み、科学技術の進展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を養う」ことを掲げています。具体的な目標として次のことを掲げています。「基礎的な学力および専門的な能力の向上を図る。スポーツ活動、文化活動に積極的に取り組む。自他を敬愛し、ボランティアの心を育む。」この目標から学校全体が学習と部活動に積極的に取り組み、文武両道を目指す生徒を育成することとしています。

平成29年度からSPH（スーパープロフェッショナルハイスクール）に認定されました。グローバルな視点を持ち、各工業科が、世界で活躍できる専門的技術者を育成することを目標に3年計画で取り組んでいます。建築科としては地熱を利用した省エネルギー住宅の研究に取り組み、再生可能エネルギー利用などの環境に配慮した次世代の建築分野についての研究や提案をできる生徒の育成に力を入れています。

生徒の進路実現を達成するため、本校では進学向けの選択科目と就職向けの選択科目を導入し、自分の進路目標に合わせて、普通科目と工業科目を選択学習することができます。

建築科では、設計事務所や施工管理、大工技能などを実際に経験できるインターンシップ、デュアルシステムを毎年実施し、専門教科への興味関心を高め、職業観を養うことができ、進路実現に役立てています。ものづくりコンテストや各種コンペ、デザインコンクールなどにも積極的に参加し、生徒の技術力の向上や発想力の醸成を図り、各種資格検定の取得にも取り組んでいます。



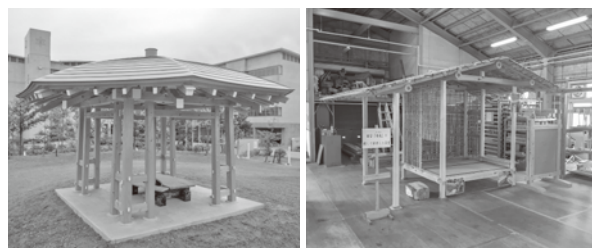
2. 新潟県立新津工業高等学校 全日制 日本建築科

本校は昭和38年に開校され、今年で創立56年を迎えます。平成18年度に学科改編の計画が公表され、平成21年度より、工業マイスター科と生産工学科を各1学級新設、平成23年度には、ロボット工学科を1学級新設、平成24年度には、新潟県教育委員会の「魅力ある高校づくりプロジェクト」の一環として、日本建築科を

1学級新設しました。現在は、4学科4学級の編成です。

日本建築科は、木材加工に主眼を置き、一般住宅を始め、社寺等の木造建築物に手刻みの技を生かせる技術者の育成を目標にしています。1年次から週に1日、「いがたの名工」認定者を講師として招き、6時間通しての実習を行います。技術だけでなく、安全管理や社会人として必要な礼儀作法・言葉遣いの厳しさを含めた、現場さながらの経験を積みます。大工道具は貸与ですが、鑿研ぎや鉋の台直しといった道具整備の基礎から指導し、生徒自身が整備した道具を3年間使います。2年次では、学校設定科目として規矩術を取り入れ、勾・受・玄法による規矩を学び、現寸図の作成に取り組みます。また、実習では、技能検定2級（大工工事）の取得を目標に技能向上に努めています。3年次では、実習で下記のような様々な建築物を製作しています。

- 平成26年度・平成27年度 「飛翔庵」茶室
(校地内に建築)
- 平成28年度 三条高校「県民の森」東屋
(三条高校敷地内に建築 画像左)
- 平成29年度 組立式茶室(画像右)
- 平成30年度 生徒用自転車小屋(校地内に製作中)



その他、技能向上を目的に、「技」を競う全国大会の上位入賞を目指しています。若年者ものづくり競技大会建築大工で金賞、高校生ものづくりコンテスト北信越大会木材加工部門で優勝および技能五輪全国大会に出場するなど、少しずつ成果が出ています。

昨年度で4期生が卒業した発展途中の学科です。試行錯誤を重ね、育成の充実に取り組んでいきます。

3. 新発田南高等学校 全日制 建築工学科

本校は、新潟県北部の中核都市である新発田市に位置し、産業界の要請に応じて大正6年に新発田町立新発田商業学校として開校した。昭和28年に新潟県立新発田商工高等学校に改称し、さらに昭和58年には商業科を分離し、新たに普通科を新設して新潟県立新発田南高等学校となった。

現在は工業科4学級5コース（機械コース、建築設計コース、環境土木コース、電子制御コース、情報システムコース）のくくり募集であり、各コースには、工業専門科目を深く学ぶプロフェッショナルコースと、大学進学に対応したアカデミックコースがある。昨年は創立100周年記念式典を行い、今までの伝統の上にさらに新しい未来に向け一歩を踏み出したところである。

建築工学科では、基本的な学習の他、2級建築施工監理技師、初級CAD検定、3級技能検定（建築大工）等の建築係資格取得に取り組んでおり、2年次にはインターンシップへ全員参加するなど、建設業界への理解を深めている。

地域の進学校としての指導を行うばかりでなく、地域産業担い手の育成校としての期待に答えるべく、地域企業や行政との連携を図り、個々の進路実現に向けた指導に取り組んでいる。

教育目標である「誠実・自主・創造」を軸に様々なステージで活躍できる人間の育成に努めていく。



4.新潟県立新潟県央工業高等学校 全日制

建設工学科 建築コース

本校は、明治44年に新潟県南蒲原郡立三条商工学校として開校しました。その後、県立三条工業学校、県立三条実業高等学校、県立三条工業高等学校を経て、平成16年に県立新潟県央工業高等学校に改称し、現在に至っています。平成28年度入学生から1学級減となり、工業科4学級160名を一括くり募集し、2年次から「機械加工科」機械技術コース、「電子機械科」メカトロ技術コース、「情報電子科」生産プログラミングコース、「建設工学科」建築コース・都市防災コースの4学科5コースに分かれる履修形態をとっています。

オンリーワンスクールの取り組みとして平成29年には加茂農林高等学校・三条商業高等学校とともにNPO法人「トライフューチャー」を設立しました。それぞれの学校の特色を活かし「環境・観光・防災」の視点で、高校生として地域の活性化と地域への貢献を目指しています。

建設工学科建築コースは今年設置2年目をむかえ、課題研究、実習、現場見学、インターンシップ、デュアルシステムなど体験学習に力を入れて、積極的に校外に出るようにしています。そのほか出前授業として専門工事業種の方を招いて講義いただくなど、現場の最新情報を学んでいます。

今年度より新しいカリキュラムとなり、専門科目の授業時間数が増加されました。また学校設定科目としてインテリア計画と木造建築技術を開講し、幅広い専門知識の習得を目標としています。地域に根ざした工業高校として、即戦力となる人材育成を目指して学習に取り組んでいます。



5.新潟県立上越総合技術高等学校 全日制

建築・デザイン科 建築システムコース

本校は大正5年5月1日、校名を「新潟県高田市立高田商工学校」と決定され、100年を超える歴史の第一歩を踏み出しました。当時は漆工科、家具指物科、商業科の3科からなる乙種実業学校3年制でスタートしました。建築科は昭和18年に新設され、学制改革による商工の分離と直江津工業高等学校との統合を経て、校名は「県立高田工業高等学校」から現在の「県立上越総合技術高等学校」へと改称されています。さらに、今年度の学科改編により、これまでの機械工学系2学科3コース2学級、電気・情報系2学科2コース2学級、住環境系2学科4コース2学級の合計6学科9コース6学級から、4学科8コース5学級へと変更されます。これに伴い、建築・デザイン科の建築システムコースと環境デザインコースは、建築環境科建築システムコース、建築インテリアコースの2コース1学級40名となります。

ここ数年の建築系コースに在籍する生徒の進路希望の傾向は、4年制大学の工学部建築系学科を中心とする進学希望者が5割強、他は地元地域の建設業を中心とした就職希望者となっています。コース在籍生徒の約3割が地元企業に就職し、地域の建設業界における将来の担い手として期待を受けています。就職希望者の約半数は女子生徒ですが、近年は施工管理職への就職希望者が増加の傾向にあります。その背景には2年生の夏休み期間中に参加するインターンシップ、デュアルシステムがあります。生徒の希望職種に配慮して設計職や大工職、施工管理等で地元企業に受け入れていただき、実務を経験する中で、施工管理職に対するネガティブなイメージが払拭される生徒が多くいます。企業も女子生徒の雇用に積極的であり、受け入れるための環境を整えて下さっています。

建築施工管理技術検定、建築CAD検定、技能検定3級（大工、左官、イラストレーションCAD）等の資格検定試験や大学等主催の設計競技会に挑戦する生徒が多数おり、活気にあふれる状況が見られます。



17. 福井県報告

福井県立武生工業高等学校
橋本和之(執筆代表)

福井県立武生工業高等学校

全日制 都市・建築科 建築コース



本校は、福井県の嶺北地域の南(丹南地区)にある越前市(旧武生市)に昭和34年4月に創立された。翌35年には土木科を土木建築科と改称するとともに電気、工業化学の2学科を新設し、3学科となった。昭和37年に土木建築科を分けて土木科および建築科と改称し4学科となった。

その後、平成6年には、土木科を都市工学科と改称するとともに、電子機械科を新設して5学科となる。平成9年の学科再編により、都市工学科と建築科を統合。都市・建築科とし、都市工学コースと建築コースとなり、定員も半数となったが、それぞれの独自性を重視し、クラスは別のままとした。平成16年度より両コースは一つのクラスとなり、平成28年度までコースごとの募集を維持していたが、平成29年度から、くくり募集となった。

同年12月には丹南地区の学校再編計画が発表され、武生商業高校と統合し、2020年に新総合産業高校として開校することとなった。開校から5年間は2キャンパスだが、2025年から1キャンパスに移行する。工業系の学科は、都市・建築科、電気情報科、ものづくり科(科名は仮称)の3学科となるが、コース制は維持される。

本校は、ミッションに「地域を支える心ある技術者の育成」をかがり、単なる人材でなく、地域の未来を託せる人財、つまり地域の財産となる「心ある技術者」の育成を目指している。

本校の進路状況は、バブル崩壊以降からリーマンショック以前は、4割から3割が進学で、国公立大学に1クラスから5人進学することもあったが、リーマンショック以後は進学者が減少し、最近では進学が2割、就職が8割といった状況である。丹南地区は製造業が盛んで、大企業も数社あり、就職者の9割以上が地元で就職し、地域を支えている。例年5名ほど本コースから大手の製造業に就職していたが、今年は建設会社のみならず、設計事務所なども含め、地域の建築生産に係わる就職先に就職希望者全員が内定した。

また、本科・本コースでは、ものづくりを通して地域社会との交流、貢献を目指してきた。その方向性を決定づけたのが、『まぼろしの鯖江城』模型製作(H2~5)である。この話題は、昭和63年(1988)に代々宮大工を営む越前市の工務店から、天保12年(1841)に描かれた「天守絵図」が見つかったことから



はじまる。諸般の事情で実現には至らずまぼろしとなった鯖江城をおよそ150年後の現在、模型で復元した取り組みである。第1回高等学校工業科生徒研究成果発表全国コンクールに、北信越地区代表として発表し、優良賞を受賞しただけでなく、模型そのものが市役所に展示され、地元の人たちに喜んでもらった。このことが、後の活動内容の「地域貢献」という方向性を決定付けることになった。

この実績のおかげで、武生市教育委員会から依頼があり、『本保陣屋』復元模型(H6~10)を製作した。本保陣屋とは、江戸時代、越前国にあった幕府直轄領を管轄していた役所で、今日伝わる本保陣屋絵図や本保陣屋から移築したと伝わっている建物の調査をもとに作業を進め、第9回全国産業教育フェアに模型を出品した。

その後、武生南小学校創立百周年事業実行委員会からの依頼で『武生南小学校』新旧校舎模型製作(H11~12)、本多富正入府400年記念事業実行委員会からの依頼で『近世の府中(武生)と現在の重ね地図』製作(H12~16)、と途切れなく依頼と製作が続き、どれもが新聞に掲載されるとともに、地域の方から非常に感謝された。

また、木材加工の技術・技能を高めるという活動にも実績が伴うようになり、H11全国木工スキルコンテストにおいて、個人の部 日本産業技術教育学会会長賞受賞。種目別の部 のこぎり引き大賞受賞。高校生ものづくりコンテスト木材加工部門では、これまでにH14、H16、H18、H19、H25と計5回、全国大会に出場し、H16第4回大会で三位入賞。H18第6回大会で二位入賞。また、H27第10回若年者ものづくり競技全国大会建築大工部門でも三位入賞を果たすという実績をあげている。

H17からは、市民グループと養老孟司先生との協働による環境保全活動に取組み、大工、製材業、木材関係者の方の指導を受けながら、越前市の山林に自然体験できる山小屋『木鶏庵』を建設したり、南越農林総合事務所ほか、様々な団体の協力を得て、間伐実習を行い、その間伐材で校舎にぬくもりを与えようとベンチ、テーブルやプランターなどを製作した。この取り組みは、H21全国林業後継者大会にて発表した。

また、同時期に開催された第60回全国植樹祭の際、天皇皇后両陛下が使われるお手播き箱を製作できるという貴重な機会に恵まれた。



福井県立敦賀工業高等学校 全日制 建築システム科



本校は、福井県の嶺南地域の中核である敦賀市に昭和37年4月に開校され、機械科・電気科（各2クラス）が設置された。昭和38年4月に工業化学科（2クラス）・昭和39年4月に

建築科（1クラス）が設置された。その後、平成7年の学科再編により、電子機械科・電気科・情報ケミカル科・建築システム科の4科となり、現在は各科1クラスの工業高校となっている。

本校は、校訓の「活力」「自立」「進化」のもと、地域から信頼され、期待される人材の育成を目標に教育を行っており、建築システム科では、「安全・快適な生活の器をつくり、地域を支える心ある技術者の育成」を目指している。近年は卒業生の8割が就職、2割が進学する。昭和の時代には、多くが関西・中京方面へ就職していたが、現在は就職者の8割以上が地元で就職し地域を支えている。

2年生の実習では、数年前より厚生労働省のものづくりマイスター派遣制度を利用して「左官」、「鉄筋組立」、「表装」の各分野の技能者を講師に招いた実習を行っている。この実習で興味を持ち、本年度も3級技能検定の「左官」・「鉄筋組立」に各8名の生徒が挑戦した。「左官」に関連する就職や進学も見られる。



3年生の課題研究における、ものづくり分野では『他の人のためになるものづくり』を原則としており、地域と連携した「保育園の園庭にプレイハウス製作」、「中学校の中庭にウッドデッキ製作」、「福井国体PR・案内用移動式ブース製作」や「保育園に木工家具・遊具寄贈」、「老人施設の要望に合った家具製作」などの課題に取り組み、生徒が、技術者の糧となる「喜ばれる」「感謝される」体験をできる機会を得られるようにしている。

特に、H23福島で原子力発電所による事故のため、親元を離れ、サテライト高校で学ばざるを得ない高校生を対象とした「メモリアルボード」の製作に際して、同年7月下旬の東日本建築教育研究会総会で製作の参加を呼びかけ、千葉県立市川工業高校、金沢市立工業高校、長野県長野工業高校、同県池田工業高校、新潟県立県央工業高校、埼玉県立春日部工業高校に賛同いただき、福井県の2校とあわせ9校の高校生が、メモリアルボードを製作した。

建築系の資格取得にも積極的に取り組んでおり、トレース検定、建築CAD検定、2級建築施工管理技術検定学科に加えて、希望者が受験する測量士補、技能検定（建築大工・左官・鉄筋組立）、2級土木施工管理技術検定

など多くの資格・検定に挑戦している。

また、高校生ものづくりコンテスト（木材加工部門・測量）に毎年出場している。木材加工部門では、9年連続で北信越大会に出場し、H24、H29には全国大会に出場した。H21には若年者ものづくり競技全国大会建築大工部門にも出場した。

今後も地域から信頼され、地域を支える工業高校を目指し、生徒の夢を実現できる建築教育に取り組んでいきたい。

2校協働の取組み 一旧今庄宿の町家改修一

学校での学習でたくさんの図面や模型を作る。それらは実際に建てられることはないバーチャルなものである。しかし、NPO法人今庄旅籠塾の方々との協働による、町家改修の取組みは、リアルなものである。

この町家改修に取り組んだことで、住まいに関して受け継がれてきた技や知恵に感激し、地域の方の熱い思いに心打たれ、建築を学ぶ工業高校生が育った。また、この活動は現在も継続し、今年で9年目となり、まちづくりに貢献できる実践体験となっている。

これまでの取組みを簡単に紹介する。

H22から、今庄で、江戸時代末期に建てられ、若狭屋という屋号をもつ、旅籠だった町家の改修に向けての取組みが始まった。

同年3月、今庄宿の町並みや若狭屋を見学した。

4月から5月にかけて、製図の課題として若狭屋改修案を作成。6月には、今庄旅籠塾と地元の大学、建築士会の方を招き、発表会を行った。



8月には、若狭屋の修繕作業と宿泊体験をした。20年近く、人気（ひとけ）の無かった町家に、灯りと賑わいが戻った2日間だった。11月には、若狭屋改修コンペで優秀賞に選ばれた生徒がまちづくり講演会で発表した。高校生らしい若々しい感性の改修案だと、多くの方から温かい拍手をいただいた。



課題研究では、若狭屋の復元模型とベンチ製作に取り組む、H23年1月、今庄旅籠塾に寄贈し、今も大切に使用いただいている。

町家の改修作業には、毎年夏休みに各校10名程の生徒が参加する。H22は障子の張り替えや庭木の剪定程度で、改修というよりも宿泊体験が主だったが（写真①）、H23、24は土間の三和土（たたき）②③、H25は2階床張りや旧山田家実測調査④、H26は2階床

塗装⑥、H27は旧山田家床張りや壁塗り⑦、H28は北側壁板張りや西山家実測調査⑧、H29南側壁板張りや南側便所解体ならびに床組設置、H30は南側壁塗りや雪囲いを設置した⑨。このように作業内容が高度化してきたが、それだけでなく指導者も教員や旅籠塾の方に加えて、この町家改修を経験し社会人になった卒業生が加わるようになってきた。



① H22(2010).8.21~22



② H23(2011).8.5~6



③ H24(2012).8.4~5



④ H25(2013).8.3~4



⑤ H26(2014).8.2~3



⑥ H27(2015).8.1~2



⑦ H28(2016).7.30~31



⑧ H29(2017).8.5~6



⑨ H30(2018).8.4~5

『ものごとは、受け継ぐたび、価値が上がる。』

まず、町家改修というリアルな「ものづくり」にかかわれたことに感謝したい。今後もリアルな「ものづくり」を継続して、まちづくり、ひとづくりに貢献でき、生徒が充実感を味わい、自信をつけて巣立っていけるよう、2校の教員が協働であたっていきたい。

18. 事務局報告

1. 大会開催都道府県について

現在、開催順を下記の通り計画をしております。

30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年
長野	北海道	秋田 (70周年)	栃木	青森	山梨	群馬	岐阜
決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定

2. 東日本建築教育研究会HPをご利用ください。

各種要綱・案内、申し込みフォームなどが掲載されております。

<http://www.hnkkk.org/>

連絡

1. 東日本建築教育研究会刊行物のご利用をお願いいたします。

2. 個人会員

井上 純一 千葉県立千葉工業高等学校定時制
田村 信義 千葉県立安房拓心高等学校
榎本 吉晃 安田学園高等学校
林原 紳二 鳥取県立米子工業高等学校
三河 友美 東京都立橘高等学校
林田 千鶴 東京都立橘高等学校
岩崎 あす佳 東京都立橘高等学校
大和田 隆寛 東京都立蔵前工業高等学校定時制
佐々木 英治 神奈川県教育委員会

3. 入会なし

4. 退会 愛知県立愛知工業高等学校 全日制 建設科 (平成30年7月現在 会員校131校)

☆事務局 東京都立総合工科高等学校・建築・都市工学科内
事務局長 野村 博美 / 会計 佐藤 裕二

☆所在地 〒157-0066 東京都世田谷区成城9丁目25-1
東京都立総合工科高等学校 建築・都市工学科内
TEL 03-3483-0204 FAX 03-3483-1194
Eメール <jimu@hnkkk.org>

19. 編集後記

東日本建築教育研究会関係者の皆様の御指導・御協力により、お陰様にて「建築教育ニュース」2018年号を完成することができました。日頃より教育活動にお忙しいところ、御執筆頂きました先生方に感謝申し上げます。

2018.12

編集担当

建築教育ニュース2018.12号

発行日 平成30年12月
編集 編集委員会 遠藤 啓史(市川工) 田村 信義(安房拓心)
発行 東日本建築教育研究会(会長 平田 誠一)
事務局 〒137-0066 東京都世田谷区成城9-25-1
TEL 03-3483-0204
FAX 03-3483-1194
東京都立総合工科高等学校(事務局長 野村 博美)
編集事務局 〒272-0031 千葉県市川市平田3丁目10番10号
TEL 047-378-4186
FAX 047-393-2405
千葉県立市川工業高等学校 内(編集委員会 委員長 遠藤 啓史)
印刷 株式会社 川口印刷工房
〒288-0044 千葉県銚子市西芝町1-6
TEL 0479-22-0721

目指せ、ビル外装のプロフェッショナル！



LIXILビル建材技術専門校

ビルサッシ、カーテンウォール施工の技術を学べます。

ホームページ <http://www.lbtc.jp/> お問い合わせ lbtc@lixil.com

熱溶解積層方式3Dプリンタ

**Value
3D MagiX**



日本品質MUTOH製3Dプリンタ。FDM方式の3Dプリンタは低価格なランニングコストが魅力。授業でも手軽にお使いいただけます。最小積層ピッチは0.05mm。造形サイズ300×300×300mmの大型造形が可能です。

石膏パウダータイプ方式3Dプリンタ

3D SYSTEMS

ProJet® x60 Series



3DSYSTEMS社製3Dプリンタ。石膏パウダーにインク&のりを塗布し固めて積層する3Dプリンタ。色鮮やかなフルカラーモデルは、デザイン検証に最適です。



武藤工業株式会社

HOME PAGE <http://www.mutoh.co.jp/3d>

東京都世田谷区池尻 3-1-3 〒154-8560 TEL(03)6758-7000(代)



株式会社 マルサ

MALSA
新潟支店 TEL.0256-38-6861 東京支店 TEL.03-3552-4121
仙台営業所 TEL.022-235-0303 E-mail query@malsa.co.jp

教材用ミニチュア足場 1/5スケール

体感する。
理解する。



富士教育訓練センターでは、多くの実業高校生や専門学校生が建設業で仕事ができる技能を身に付けるため実習に取り組んでいます。

富士山西麓の恵まれた環境のもとで、手に職を目指す若者に実務教育のための充実した実習の場が用意されています。



学校の夏休みを利用して高校生や大学生、専門学校生が資格取得や現場で仕事ができる技能を身に付けるため、実習に取り組んでいます。



土木・建築・内装など
富士山西麓の恵まれたフィールドで
充実した教育を
行っています。

学校や先生方のお問合せ、来訪をお待ちしています。

職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会

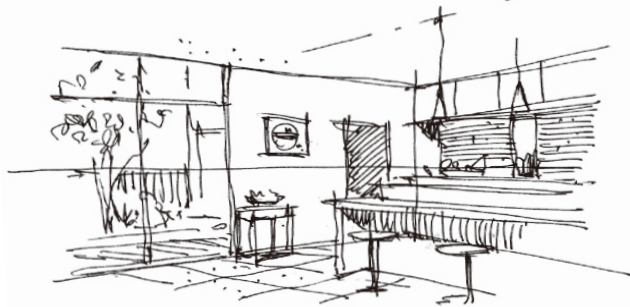
富士教育訓練センター

URL <http://www.fuji-kkc.ac.jp>

〒418-0101
静岡県富士宮市根原492-8

TEL 0544 (52) 0968
Email info@fuji-kkc.ac.jp

描くチカラは、伝えるチカラ。



ものづくりに携わる者が身につけておきたいスキル、それが『描くチカラ』。

『伝える』を『確実に伝わる』に変える、有効なコミュニケーションツールなのです。



一般社団法人

日本パーステック協会

Japan Pers-tech Association

手描きパースの普及・教育・指導 / パース検定主催

立体を表現する力

パース検定

1級、2級、3級

2018年11月11日(日)開催

<http://www.pers-tech.org>

詳しくはHPをご覧ください

〒542-0081 大阪市中央区南船場 1-5-11

TEL : 06-6267-5331 FAX : 06-6267-5332

E-mail : info@pers-tech.org

2018年4月、建築学部誕生！

建築学部を開設しました。建築学科に建築コース、生活環境デザインコースの1学部1学科2コース制により、全教員が連携しながら、建築・都市デザイン、構造・環境エンジニアリング、住空間デザイン、福祉空間デザインなど、幅広い分野を体験的に学べる層の厚い教育を実現します。住宅からまちづくりまで、魅力的で安全・快適な建築空間を生み出す建築家や建築技術者を養成します。

〔建築学科建築コース〕 建築・都市デザイン/構造・環境エンジニアリング

〔建築学科生活環境デザインコース〕 住空間デザイン/福祉空間デザイン



〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園4-1

TEL 0480-33-7676 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp <http://www.nit.ac.jp/>

日本工業大学

唯一！本格的に木造建築の技術と心が学べる

日本建築専門学校

一級建築士受験資格認定校（4大と同等）

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出2730-5
TEL 0544-54-1541

いざ、チャレンジ！！

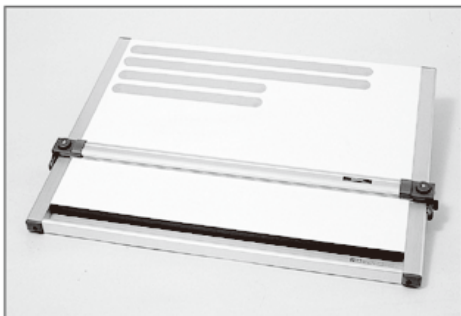
建築甲子園

詳細はHPで <http://www.kenchikushikai.or.jp/>
公益社団法人 日本建築士会連合会

建築士受験用平行定規のベストセラー製品です！

DRAPAS BOARD DXM-601

- ◆マグネットボード仕様・携帯バッグ(防水)付属 ◆重量:3.0kg(本体)
- ◆外形寸法:505×685mm 製図範囲:426×600mm
- ◆マグネットプレート 500mm×2枚・300mm×2枚 付属



※ポータフォリオバッグ
付も選べます。

◆好評のドラパスボードの姉妹品 DXM900 (A1)



用途に応じ、製図台付
セットも用意できます。

お問い合わせは下記まで

DRAPAS 設計製図・画材・デザイン材料の総合発売元

ドラパス株式会社

本社:東京都北区滝野川7-26-7 〒114-0023
TEL:03(3916)3201 FAX:03(3916)5532
<http://www.drapas.co.jp>



専門学校
東京テクニカルカレッジ

入学相談室 〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3

☎ **0120-1969-04**

🌐 <https://www.tera-house.ac.jp/tec/>



- ◆建築監督科
- ◆建築科（昼・夜）
- ◆インテリア科
- ◆ゲームプログラミング科
- ◆情報処理科
- ◆Web動画クリエイター科
- ◆環境テクノロジー科
- ◆バイオテクノロジー科

私の夢は、人と自然にやさしい家を建てること。
だから、東京建築カレッジ。

建築の夢とやりがいが見つかる、週2日（金・土）の短期大学校



職業能力開発短期大学校 厚生労働省所管・東京都認定

東京建築カレッジ

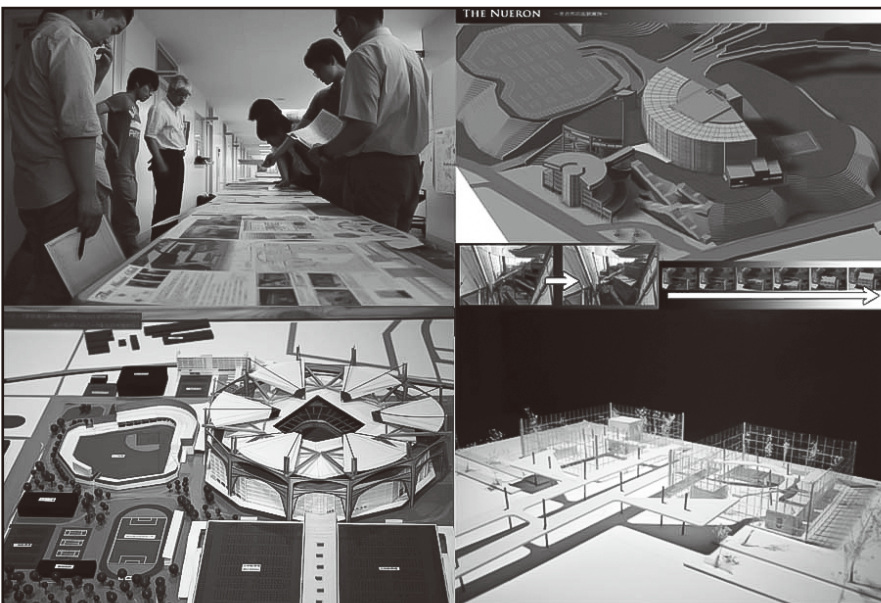


TEL 03-5950-1771
E-MAIL info@doken-college.ac.jp

公式ウェブサイト、facebookで、授業の様子を公開中！
検索キーワードは「東京建築カレッジ」

■池袋校舎／東京都豊島区池袋1-8-6

■江東実習場／東京都江東区北砂1-15-12



星槎道都大学

美術学部 建築学科

- 建築プロフェッショナル専攻
- 建築デザイン専攻



〒061-1196 北海道北広島市中の沢149番地 TEL 011-372-3111

☎ **0120-870205**

木造注文住宅 「住友林業の家」の施工専門会社

住友林業100%出資のグループ会社で、私たちは高品質の「住友林業の家」を技術で支えています！

確かな技能を育む訓練体制

入社後は、住友林業建築技術専門校にて1年間『木造軸組工法』の基礎を学んだのち、配属されます



毎年、国内の若手技能者がその技を競う「技能五輪全国大会」の建築大工職種で常に上位入賞を果たしています

「技能五輪国際大会(world skills)」にも出場実績があります

1999年ダ・モンリオール大会：敢闘賞

2007年日本・静岡大会：銀賞

2011年イギリス・ロンドン大会：銀賞

※毎年全国で60名の大工職を採用しています



住友林業ホームエンジニアリング株式会社

本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-23-7 TEL:03-6911-3341 <http://www.sumirin-he.co.jp/>

たくみ

匠を目指してみませんか？

清水建設の施工協力会社求人情報サイトを開設しました。

建造物は沢山の専門工事会社が協力してつくります。

専門工事には「匠」の技が欠かせません。

職人になるという選択 匠を目指してみませんか？



新しい日本をつくるのは君だ！

匠を目指す人集まれ

検索

<https://www.shimztakumi.com/> 清水建設協力会社求人サイト



じっきょうのデジタル教材 ビジュアルコンテンツ シリーズ

木材加工DVD コンクリート試験DVD 溶接DVD

各DVD1枚組 定価（本体 15,000 円+税）

※指導資料扱いとなりますので、学校に出入りの書店様に直接ご注文下さい。

実教出版株式会社

<http://www.jikkyo.co.jp/>

本社 〒102-8377 東京都千代田区五番町5

TEL 03-3238-7773~7 FAX 03-3238-7755

大阪支社 〒532-0003 大阪市淀川区宮原5-1-3 NLC新大阪アースビル

TEL 06-6397-2400

FAX 06-6397-2402

九州支社 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-2-1 日本生命博多駅前ビル

TEL 092-473-1841

FAX 092-471-7529



塗装技術を通じて、豊かな生活環境を提供します。



2017年度(第25回)全国建築塗装技能競技大会「内閣総理大臣賞」受賞
2017年度「東京都中小企業技能人材育成大賞」優秀賞受賞



Pride Kaizen Harmony

佐藤興業株式会社

SATO KOGYO CO.,LTD.

東京都千代田区神田駿河台 2-10
<http://www.p-sato.co.jp/>

アットホーム教育と就職に強い！

- ◆ 建築設計科 (2年制)
- ◆ ビジュアルデザイン科 (2年制)
- ◆ ゲームクリエイター科 (3年制)
- ◆ 建築士専攻科 (1年制)※
(※ 2級建築士受験資格取得者対象)
- ◆ 高度情報処理科 (3年制)
- ◆ 情報システム科 (2年制)



学校法人 国際理工学園

国際理工情報デザイン専門学校

情報・ゲーム・デザイン・建築の総合学園

〒263-0024 千葉市稲毛区穴川3-8-11 TEL.043(252)1920 FAX.043(287)6714

写真で見る土木工事の施工手順

改訂
5版

土木施工の実際と解説

ⅠA4判 定価 本体 14,000円+税

土木施工の流れと要点を
分かりやすく解説！

こんな方におすすめ!!

現場に行く機会のない学生の教材におすすめします！



こんな教材が欲しかった！

まんがめざせ！現場監督

まんがシリーズ
第3弾!!

【平成27年5月発行】ⅠAB判 定価 本体 2,000円+税

現場のやりがいを
知ることが出来る一冊



内容見本

解説

これから建設業界を目指そうという学生の皆様に おすすめします！



一般財団法人 建設物価調査会

☎ 電話でのお問い合わせ ☎ 0120-978-599 (9:00~17:00 土・日・祝日除く)

💻 パソコンからのお申込み <http://book.kensetu-navi.com/>

建設物価 Book Store





100年をつくる会社 鹿島建設と共に働こう！



鹿島事業協同組合連合会

〒107-8348 東京都港区赤坂6-5-11 TEL 03-3587-9547

<http://kajima-kyoren.com>



Facebookで学校の最新情報を公開中!

未来に誇れる仕事をしよう。

ASANO
INSTITUTE OF TECHNOLOGY

本校の学科は「職業実践専門課程」として文部科学大臣から認定されています。

未来の日本を担う「総合的建築人」を育成
充実の4年間 **建築工学科**
＜高度専門士＞

人と環境に優しい「住宅・住空間のプロ」を育成
集中の2年間 **建築デザイン科**
＜専門士＞

横浜で本物を学ぶ「浅野の建築」
浅野工学専門学校

〒221-0012 横浜市神奈川区子安台1-3-1
☎0120-19-2903 FAX.045-431-9724 MAIL. info@asano.ac.jp
www.asano.ac.jp/ 詳しくは

学校法人 浅野工学

ICSカレッジオブアーツ

日本で最初のインテリア専門校で
建築・インテリア・家具の
デザイン・ものづくりを学ぶ

152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-6
東急東横線「都立大学」駅下車 徒歩5分
Tel:0120-006-911 <http://www.ics.ac.jp>

専門学校



設置学科

全日制2年コース

建築CAD技術科 (定員 80名)

デザイン設計科 (定員 29名)

全日制1年コース

建築デザイン研究科 (定員 80名)

お気軽にお問い合わせください。

0120 - 36 - 4149

受付時間 / 9:00 - 17:00



学校法人 日建千葉学園

千葉日建工科専門学校

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉 2-20-1

TEL. 043-241-1300 FAX. 043-241-1302

<http://cnp.ac.jp>

技能講習

資格取得講習
ガス溶接
技能講習

労働安全衛生法 第115条-労働安全衛生法施行令 第70条-労働安全衛生規則 第74条

可燃性ガス及び、酸素を用いて行う、金属の溶接、溶融、加熱の作業には、ガス溶接技能講習の受講が必須です。



¥9,300

資格取得講習
有機溶剤
作業主任者技能講習

労働安全衛生法 第14条-労働安全衛生法施行令 第42条-第43条



¥11,100

資格取得講習
ボイラー取扱
技能講習

労働安全衛生法 第15条-労働安全衛生法施行令 第75条-第76条



¥9,900

《出張講習のご案内》

労働安全衛生法に規定されている【技能講習】および【特別教育】を各都県の学校中心に「出張講習」にて実施させていただいており、記載されている以外の科目も実施しております。

ご質問・資料請求等、お気軽に御問い合わせ下さい。

※校内を会場として使用した場合の1名当りの講習料です。

資格取得講習
フォークリフト運転
特別教育

労働安全衛生法 第55条第3項、労働安全衛生法施行令 第36条

最大荷重1トン未満のフォークリフトの運転の業務に必要な資格です。



¥9,400

資格取得講習
高所作業車運転
特別教育

労働安全衛生法 第55条第3項、労働安全衛生法施行令 第36条

作業車の高さ10メートル未満の高所作業車の運転の業務に必要な資格です。



¥9,300

資格取得講習
アーク溶接
特別教育

労働安全衛生法 第55条第3項-労働安全衛生法施行令 第34条

アーク溶接を行って行う金属の溶接、溶融等の作業には、アーク溶接特別教育の受講が必須です。



¥11,300

特別教育

労働局登録教育機関

㊦ 一般財団法人 労働安全衛生管理協会

〒336-0017 さいたま市南区南浦和 2-27-15(信庄ビル3階) TEL 048(885)7773

ホームページ <http://www.roudouanzen.com>

夢をカタチにできる大学



NHK大学ロボコンで活躍



授業で本物の連絡橋を建設



全日本学生
フォーミュラで活躍



授業で戸建住宅を建設



ものづくり大学

Institute of Technologists

技能工芸学部 製造学科 **コース** 先進加工技術, 機械デザイン, 電気電子・ロボット
情報・マネジメント

建設学科 **コース** 木造建築, 都市・建築, 仕上・インテリア
建築デザイン

〒361-0038 埼玉県行田市前谷333番地 Tel 048-564-3816 URL <http://www.iot.ac.jp/>

3DCGで学習する 建築・インテリア・プレゼンテーション

MEGASOFT®

主な学習効果

1 平面と立体の関係を容易に理解でき、空間把握力が育ちます



● 製図学習で作成した平面プランを入力

● 立体画面で再現した空間をすみずみまで確認

● 法規チェック、平面図/立面図をCADデータで出力

2 住宅デザイン、空間デザインの授業に広く活用されています

住宅デザイン、空間デザインを繰り返し検討することができるので、デザイン、イメージ力を養うことができます。



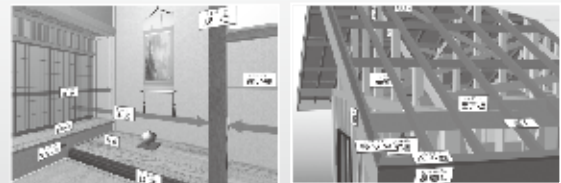
● 大牟田学園大牟田高等学校 生徒作品

3 プレゼンテーション力を養えます



● プレゼンボード機能で資料を作成し学習発表に利用

4 大工さんが作った3DCGムービーで学習する
「構造学習教材」附属



木造軸組構造・和室の構造
屋根の種類・階段・継手(木材の接合)

住宅建築プレゼンテーションソフト
3DマイホームデザイナーPRO9EX なら

■床編集機能

段差やスロープの設定、小上がり・掘りごたつの表現が可能。

■天井編集機能

飾り縁やコーブ照明付きの折り上げ天井、勾配天井・天窗、コーニス照明の設定が可能。



■モールディング装飾

壁面の上部と下部に化粧線を設定が可能。

■壁装飾

装飾用の開口、ニッチ、付け棚も設置が可能。



プロの現場でも使われています!

3DマイホームデザイナーPROは、大手ハウスメーカー、工務店、設計事務所など17000社以上の企業に導入されており、成約を勝ち取るためのプレゼンツールとして多くのプロフェッショナルユーザーから信頼されるツールとなっています。

学校向け住宅デザインソフトセット

3DマイホームデザイナーPRO9 スクールパック

ボリュームライセンス(1ライセンス):標準価格 34,500円(税別)~

学校導入事例をご覧ください → <http://www.megasoft.co.jp/3d/school/pro9/>

使いやすさと信頼性

メガソフト株式会社

〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12梅田センタービル11階 TEL.06-6147-2780 FAX.06-6131-5081

<http://www.megasoft.co.jp>

お問い合わせはこちらまで → インフォメーションセンター TEL.06-6147-2780

受付時間:9:30~11:45 13:00~17:00
(土、日、祝祭日除く)



確実な就職・デビューへ!

クリエイターズカレッジ

プロデューサー、カメラマン、声優、俳優、舞台スタッフ、マンガ家、アニメーターをめざす。

- ◎ 放送芸術科*
- ◎ 声優・演劇科
- ◎ 演劇スタッフ科
- ◎ マンガ・アニメーション科四年制※◆*
- ◎ マンガ・アニメーション科*

デザインカレッジ

ゲームプログラマー、CGデザイナー、グラフィックデザイナー、Webデザイナー、インテリアデザイナー、プロダクトデザイナーをめざす。

- ◎ ゲームクリエイター科四年制※◆*
- ◎ ゲームクリエイター科*
- ◎ CG映像科(3年制)
- ◎ グラフィックデザイン科(3年制)*
- ◎ Webクリエイター科(3年制)
- ◎ インテリアデザイン科(3年制)
- ◎ プロダクトデザイン科(3年制)

*職業実践専門課程認定学科
 ※高度専門士付与学科 ◆編入制度あり
 ●日本工学院専門学校設置
 ◎日本工学院八王子専門学校設置

ミュージックカレッジ

ミュージシャン、コンサートスタッフ、レコーディングエンジニア、ダンサーをめざす。

- ◎ ミュージックアーティスト科
 プレイヤー/ヴォーカリスト/
 サウンドクリエイターコース
- ◎ コンサート・イベント科*
- ◎ 音響芸術科*
- ◎ ダンスパフォーマンス科

テクノロジーカレッジ

ロボット技術者、電子・電気技術者、バイオ技術者、自動車整備士、建築士、土木技術者、CAD技術者をめざす。

- ◎ ロボット科*
- ◎ 電子・電気科*
- ◎ 一級自動車整備科(4年制)※◆*
- ◎ 自動車整備科*
- ◎ 環境・バイオ科*
- ◎ 応用生物学科*
- ◎ 建築学科(4年制)※◆*
- ◎ 建築設計科*
- ◎ 土木・造園科*
- ◎ 機械設計科*

ITカレッジ

システムエンジニア、プログラマー、ネットワークエンジニア、セキュリティエンジニアをめざす。

- ◎ ITスペシャリスト科(4年制)※◆*
- ◎ 情報処理科*
- ◎ パソコン・ネットワーク科*
- ◎ 情報ビジネス科*

医療・保育カレッジ

医療事務スタッフ、診療情報管理士、鍼灸師、柔道整復師、保育士、幼稚園教諭をめざす。

- ◎ 医療事務科*
- ◎ 診療情報管理士専攻科(1年制)
- ◎ 鍼灸科(3年制)*
- ◎ 柔道整復科(3年制)*
- ◎ こども学科*
- ◎ 保育士/幼稚園教諭・保育士コース

スポーツカレッジ

トレーナー、インストラクター、スポーツメーカー、ショップスタッフ、サッカー・テニスプレイヤーをめざす。

- ◎ スポーツトレーナー科三年制*
- ◎ スポーツトレーナー科*
- ◎ スポーツ健康学科三年制*
- ◎ スポーツインストラクター/スポーツビジネス/サッカー/テニスコース
- ◎ スポーツ健康学科*
- ◎ スポーツインストラクター/スポーツビジネス/サッカー/テニスコース

片柳学園給付型奨学金設置

オープンキャンパス+体験入学 開催中!



浦田
キャンパス



日本工学院 検索

八王子
キャンパス



楽しく学んで、しっかり就職。

日本工学院

www.neec.ac.jp

日本工学院専門学校

☎0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

日本工学院八王子専門学校

☎0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1

Facebook 日本工学院 LINE @nihonkougakuin Twitter @neec_official Instagram nihonkogakuin

姉妹校 日本工学院北海道専門学校 併設校 東京工科大学 日本工学院を卒業後、併設校の東京工科大学へ有利に編入できる制度があります。

建築・土木・造園業界へ直結!

国家資格

- 一・二級建築士受験資格
- 1・2級建築施工管理技士受験資格
- 1・2級土木施工管理技士受験資格
- 1・2級造園施工管理技士受験資格 ほか

蒲田校



八王子校



一級建築士をめざす

建築学科(4年制)※

高度専門士
放送大学

建築設計コース/インテリア設計コース/
建築構造・設備コース/建築施工コース

二級建築士をめざす

建築設計科(2年制)※

建築設計コース/インテリア設計コース/
建築構造・設備コース/建築施工コース

土木・造園技術者をめざす

土木・造園科(2年制)※☆

機械設計技術者をめざす

機械設計科(2年制)※

※職業実践専門課程認定学科
☆八王子校のみ設置

News & Topics

◆主な就職先・大学編入学実績 [2015年~2017年]

東証一部上場企業 公務員 大学編入学
101名 5名 17名

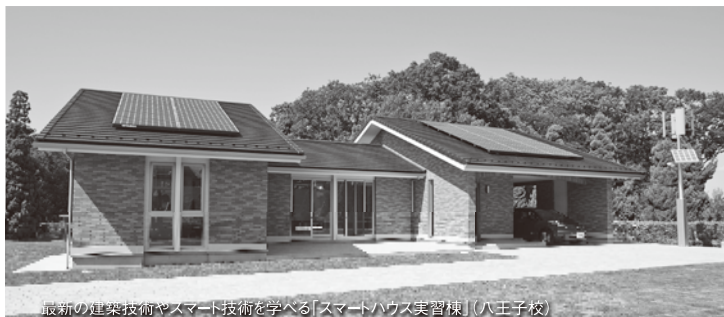
◆建設の最先端設計技法“BIM”を学び、
BIM関連企業へ多数就職!

※BIM=ビルディング・インフォメーション・モデリング

◆建築士合格実績 [2015年~2017年]

二級建築士・木造建築士
82名合格(在学中)

◆建築学科[4年制]の卒業生が
「首都大学東京大学院」に進学!



最新の建築技術やスマート技術を学べる「スマートハウス実習棟」(八王子校)



3Dプリンター・スキャナーなどを備えた先端3D製作室(八王子校)

楽しく学んで、しっかり就職。

日本工学院

日本工学院専門学校

☎ 0120-123-351 〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22

日本工学院八王子専門学校

☎ 0120-444-700 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404-1



クリエイターズカレッジ デザインカレッジ ミュージックカレッジ ITカレッジ テクノロジーカレッジ 医療・保育カレッジ スポーツカレッジ

■URL <http://www.neec.ac.jp/> ■Eメール info@neec.ac.jp ■日本工学院 ■@nihonkougakuin ■@neec_official ■@nihonkogakuin

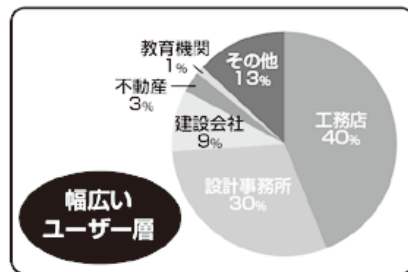
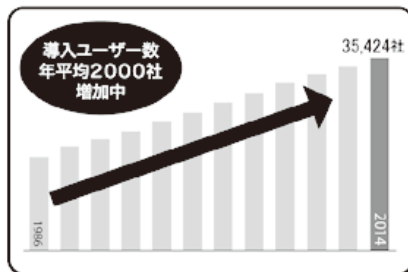


プランニングからプレゼン・申請まで一気通貫！ それがARCHITREND ZEROのフラグシップ



間取りや屋根等の基本データから、瞬時に3Dモデルを作成し、各種図面や書類、CGパースなどを一気に作成。
圧倒的なスピードと操作性で、使う方一人ひとりにフィットする、流れるような高速オペレーションを実現します。

業界の動き、ユーザーニーズに応え、常に進化し続けるCAD、福井コンピュータの「ARCHITREND」シリーズ



■導入実績全国35,000社、ユーザー様の声を製品に反映

ARCHITRENDシリーズは、工務店・設計事務所のユーザー様を中心に、建築CAD市場ではトップシェアの全国35,000社、累計60,000本の導入実績を誇っています。また、その実績を元に幅広くユーザー様からの声を集約し、商品開発に反映。常に業界にとってより良い製品開発を心掛け、販売を行っております。

■300以上の公共・教育機関で活躍

全国の公共・教育機関で、CAD実習の教材としても、幅広く導入いただいております。専用CADの高度な専門性と使いやすさは、学ぶ方の学習意欲向上にもつながり、社会の即戦力となるスキルを身につける抜群のツールとなっています。

■万全のサポート体制

全国を網羅する30ヶ所の営業拠点に、各都道府県専任担当者を配置。地域未着型の充実サポートをご提供いたします。

全国
30拠点



福井コンピュータアーキテクト株式会社

□本社 / 福井県坂井市丸岡町磯部福庄5-6

札幌・盛岡・仙台・新潟・長野・埼玉・高崎・水戸・宇都宮・千葉・東京・横浜・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・神戸・大阪・高松・岡山・広島・山口・福岡・大分・熊本・鹿児島・宮崎・沖縄

●製品に関するお問合せは【カスタマサポートセンター】

0570-550-291

上記ナビダイヤルは福井県坂井市に発信し、発信地までの通話料はお客様のご負担となります。また、通話料に応じてはマイラインの登録に際して、NTTコミュニケーションズからの請求となります。携帯電話からのご利用の場合は20秒ごとに10円の通話料がお客様の負担となります。

無料体験版あります！

●体験版ダウンロード / 資料請求は

福井コンピュータ 検索
archi.fukuicompu.co.jp

建築の最新技術【BIM】を学び、
建築業界で活躍できる人材を育てます！



建築のプロとして必要な知識・技術と豊かな感性を育む。

2
年
制

建築学科

- 建築設計コース
- 施工管理コース
- 建築設備コース

住空間のスペシャリストとして活躍できる人材を育てる。

2
年
制

住宅デザイン科

- 住宅設計コース
- リフォームコース

空間演出に必要なノウハウとスキルを学ぶ。

2
年
制

インテリアデザイン科

- インテリアスタイリングコース
- ショップデザインコース
- 家具・照明コース

CG・BIM をマスターし、設計・プレゼン技術を磨く。

2
年
制

建築CGデザイン科

- BIM マネージメントコース
- CG クリエーターコース

働きながらや W スクールで“二級建築士”を目指す！

2
年
制

建築学科（夜間部）



“二級建築士”試験に全力を注ぎ、資格取得を完全サポート。

1
年
制

研究科

※入学資格：二級建築士の受験資格を有する者。
(取得見込み者を含む)



学校法人 中央工学校

中央工学校 OSAKA

〒561-0872 豊中市寺内一丁目 1-43

tel. 0120-08-1143(入学係) mail. info@chuoko-osaka.ac.jp

中央工学校

109年を超える伝統と確かな教育実績！
即戦力として活躍できるプロフェッショナルを育成！

建築・木造・設備・室内・インテリア

◀ 建築関連学科 News ▶

平成29年 一級建築士試験『設計製図の試験』学校別合格者数発表

平成29年一級建築士試験『設計製図の試験』

学校別合格者数一覧が公開されました。

専門学校では8年連続（平成22年～29年）トップの合格実績でした。

※平成22年以前は、専門学校の発表は無し。



順位	学校名	合格者数
1	日本大学	181
2	東京理科大学	108
3	芝浦工業大学	102
4	早稲田大学	71
5	明治大学	67
6	工学院大学	60
6	千葉大学	60
8	近畿大学	58
8	法政大学	58
10	京都大学	56
11	京都工芸繊維大学	52
11	神戸大学	52
13	関西大学	48
14	九州大学（九州芸術工科大学）	44
15	東京都市大学（武蔵工業大学）	43
16	大阪工業大学	40
17	大阪大学	39
18	東京工業大学	38
18	東京大学	38

順位	学校名	合格者数
20	横浜国立大学	36
	広島大学	36
	名古屋工業大学	36
23	熊本大学	35
24	東京電機大学	33
25	東北大学	32
26	神奈川大学	31
27	大阪市立大学	29
28	東洋大学	28
	名城大学	28
30	金沢工業大学	27
	首都大学東京（東京都立大学）	27
	信州大学	27
33	室蘭工業大学	26
	立命館大学	26
35	中央工学校	25
	慶應義塾大学	25

◀ 中央工学校 News ▶

次の100年をしっかりと見据えた新校舎を建設中

中央工学校は、2019年に創立110周年を迎えます。現在、その節目の年の竣工を目指して、新校舎の建設プロジェクトを進めています。

プロジェクトのテーマは『100年建築』創設以来の校是である堅実を表現し、次の世代へ自信をもって引き継いでいける建物にすることで、これまで以上に確かな技術者を輩出できるキャンパスへと進化させていきます。



土木・測量・造園・舞台美術・イベント設営・機械・CAD

※土木・測量関連学科では、卒業と同時に測量士補無試験取得学科あり

- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
- TEL : 03-3905-1511（入学相談室）
- PC : <http://chuoko.ac.jp>（携帯からもアクセス可）
- Mail : info@chuoko.ac.jp



中央工学校の
オフィシャルHPに
アクセスできます。
資料請求や学校説明会・
体験入学の申込可能



中央工学校の公式アプリが
誕生しました！
最新の学校情報がいつでも
更新できます。



専門学校コンソーシアム Tokyo 加盟校
the consortium of colleges in Tokyo

<http://www.senmon-con-tokyo.jp/>



技術をつなぐ、
未来をつくる。



戸田建設全国利友会は、戸田建設のパートナー企業として
さまざまな建設プロジェクトを実現する 1,500 社の専門工事会社集団です。

[支部組織]

札幌利友会	〒 060-8535	北海道札幌市中央区北 3 条東 2-2	TEL. 011-231-9211
東北利友会	〒 980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町 3-3-6 星和仙台ビル	TEL. 022-222-1257
関東利友会	〒 330-0063	埼玉県さいたま市浦和区高砂 2-6-5 浦和大栄ビル	TEL. 048-827-1418
千葉利友会	〒 260-0031	千葉県千葉市中央区新千葉 1-4-3 フコク生命ビル	TEL. 043-242-4466
東京利友会	〒 104-8388	東京都中央区京橋 1-7-1	TEL. 03-3535-1501
首都圏土木利友会	〒 104-8388	東京都中央区京橋 1-7-1	TEL. 03-3535-1580
横浜利友会	〒 231-0005	神奈川県横浜市中区本町 4-43 A-PLACE 馬車道	TEL. 045-228-6074
名古屋利友会	〒 461-0001	愛知県名古屋市東区泉 1-22-22	TEL. 052-951-8541
大阪利友会	〒 550-0005	大阪府大阪市西区西本町 1-13-47 新信濃橋ビル	TEL. 06-6531-3886
広島利友会	〒 730-0044	広島県広島市中区宝町 1-20	TEL. 082-545-7500
四国利友会	〒 760-0062	香川県高松市塩上町 2-8-19	TEL. 087-835-1153
九州利友会	〒 810-8502	福岡県福岡市中央区白金 2-13-12	TEL. 092-525-0350
全国利友会合同事務局	〒 104-0031	東京都中央区京橋 2-8-4-301	TEL. 03-3561-5332

「現場見学」、「出前講座」、「インターンシップ」などのご協力致します。詳細は以下を検索のうえ、ホームページをご覧ください。
採用等に関しては各支部宛にお問い合わせください。

 戸田建設全国利友会

利友会

検索 

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は含まれておりません。

総合資格学院は
 学科試験も
 設計製図試験も
 「日本一」の合格実績！

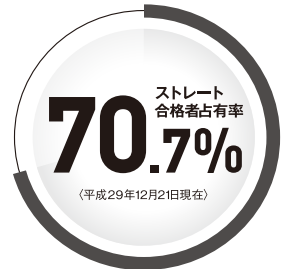


1級建築士試験 合格者占有率

No.1

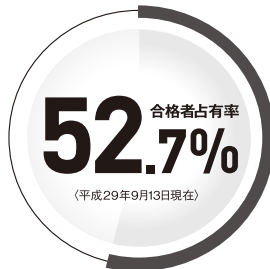
平成29年度 1級建築士 学科+設計製図試験

全国ストレート合格者 1,564名中/
 当学院当年度受講生 1,105名
 全国ストレート合格者の
 7割以上は
 当学院の当年度受講生！



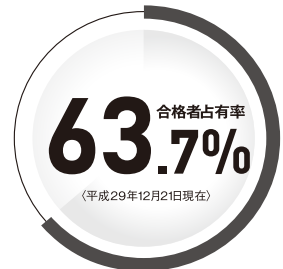
平成29年度 1級建築士 学科試験

全国合格者 4,946名中/
 当学院当年度受講生 2,607名
 全国合格者の
 2人に1人以上は
 当学院の当年度受講生！



平成29年度 1級建築士 設計製図試験

全国合格者 3,365名中/
 当学院当年度受講生 2,145名
 全国合格者の
 およそ3人に2人は
 当学院の当年度受講生！



平成29年度 2級建築士学科試験

当学院基準達成
 当年度受講生 合格率
99.0%
全国合格率 36.6%に対して
 8割出席・8割宿題提出・総合模試正答率7割
 当年度受講生299名中、合格者296名
<平成29年8月22日現在>

開催実績
70
 校以上！

平成29年度 2級建築士設計製図試験

当学院基準達成
 当年度受講生 合格率
71.7%
8割出席・8割宿題提出
 当年度受講生2,438名中、合格者1,747名
 <平成29年12月7日現在>

その差
約24%

当学院基準達成当年度受講生
 以外の受験生 合格率
47.8%
当学院基準達成当年度受講生
 以外の受験生3,399名中、合格者4,016名
 <平成29年12月7日現在>

建設業界研究 セミナー

全学年対象

開催費用
無料

授業1コマまたは2コマ、
 貴校教室をお借りして実施！

建設業界の仕事内容・職種 / 業界の動向
 地元企業の採用情報 / 役立つ資格 / 企業紹介 など

他、ビジネスマナー講習や保護者向けセミナーなど
 先生方のご要望に応じ、最適な内容をご提案します！

2級建築/土木施工管理技士 合格支援サービス —すべて無料—

在学中から2級建築 / 土木施工管理技術検定学科
 試験合格をめざす学生を対象に、ガイダンスを実施！

当学院オリジナルの学習教材を見本として
 献本。副教材としてご検討ください。

大好評「無料学科模擬試験」
 日々の学習成果を客観的に把握。
 試験結果通知票で弱点を分析！



各種お申し込み・ご相談は
 当学院、学校法人課まで

お気軽にお問い合わせください！

学校法人課 TEL.03-3340-2812 MAIL.kenchiku@shikaku.co.jp



総合資格学院

スクールサイト
 コーポレートサイト

www.shikaku.co.jp
 www.sogoshikaku.co.jp



さらなる高みへ。

信頼されて
25th

25年間の実績と信頼

日本初の建築CAD資格として25年。
延べ受験者数は100,000名を超え、
75,000名に上る有資格者を社会に輩出してきました。
私たちはわが国の基幹産業である建設業界の健全な発展に寄与
するため、これからも啓蒙活動を展開して参ります。

全国工業高等学校長協会・対象
ジュニアマイスター顕彰制度 資格

建築CAD検定試験は、CADの操作技能レベルを客観的に判断し、社会に証明するもので全国の教育機関で採用されるわが国最大のCADの実技検定試験です。

また、ジュニアマイスター顕彰制度の対象になっており、高校生による受験も昨年は3,559名に上り、ここ数年増加傾向にあります。

試験はすべて実技試験で、一定の建築知識をもとに与えられた条件のもと建築一般図を完成させる、あるいは課題図面を正確にトレースするなど、CADのスペシャリストとして認定されます。

今や75,000余名の有資格者が社会の第一線で活躍しており、年々CAD技術者のニーズが増え続ける中、当試験に対して有能な人材確保を目指す多くの産業界からも熱い注目を集めています。

ジュニアマイスター顕彰制度の得点

准1級	2級	3級	4級
20点	12点	4点	2点

※「平成29年度後期区分表」より

建築CAD検定試験 実施概要

受験方法

団体受験

試験日

1・4・7・10月(年4回)

※准1級は10月のみ

受験会場

全国の教育機関にて実施

一般受験

4・10月(年2回)

全国主要都市の認定会場にて実施

※各回毎に異なりますので願書にてご確認ください。

平成29年度技能表彰制度 表彰校のご紹介(高校の部)

- 最優秀団体賞 / << 4級 >> 大阪府立布施工科高等学校(第71回) 長崎県立大村工業高等学校(第69回)
佐賀県立鳥栖工業高等学校(第68回)
- 優秀団体賞 / << 2級 >> 長崎県立長崎工業高等学校(第71回)
- << 3級 >> 秋田県立秋田工業高等学校(第71回) 島根県立出雲工業高等学校(第71回)
広島県立宮島工業高等学校(第70回) 広島県立広島工業高等学校(第68回)
- << 4級 >> 北海道帯広工業高等学校(第71回) 山梨県立笛吹高等学校(第71回)
奈良県立奈良朱雀高等学校(第71回) 岐阜県立中津川工業高等学校(第70回)
広島市立広島工業高等学校(第70回) 群馬県立前橋工業高等学校(第69回)
長崎県立佐世保工業高等学校(第69回) 三重県立伊勢工業高等学校(第68回)

◆試験の詳細についてはホームページをご覧ください  <http://www.aacl.gr.jp>



主催

一般社団法人
全国建築CAD連盟 試験センター

〈本部〉〒461-0008 名古屋市東区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7階 TEL. 052-962-5544 / FAX. 052-962-5570  info@aacl.gr.jp

東京都知事認定

株式会社 鈴木組 ・ 鈴木職業訓練校



『とびを^{たか}架設工に変える！！』

当社は建設業専門業種 鳶の職人の会社です。平成 6 年 東京都知事認定職業訓練校「建築施工系とび科」を開校し、現在 24 期生の新卒者（高校・大学・専門学校）が入社して 1 年間 訓練校にて、座学・実技の授業（訓練）を受け 2 年目から現場で活躍出来る様、取得可能な玉掛技能講習・クレーン運転 5 t 未満特別教育・研削といし特別教育の資格取得をしています。

訓練校での授業内容

計 1600 時間

学科	普通学科	24 時間	実技	系基礎実技	180 時間
	系基礎学科	332 時間		専攻実技	876 時間
	選考学科	188 時間			

【最近の主たる当社施工実績】

- ・新タワー(東京スカイツリー) H24.4 竣工
- ・パレスホテル H24.4 竣工
- ・ロジポート相模原 H25.8 竣工
- ・イオンモール幕張 H25.12 竣工
- ・虎の門ヒルズ(環二)H26.4 竣工
- ・新宿駅新南口ビル及びバスタ新宿H28.3 竣工
- ・大手町二丁目地区再開発施設建築物建設工事 H30.8 竣工予定
- ・浜松町駅前プロジェクトH30.8 竣工予定
- ・オリンピックアクアティクスセンターH30.6 建設中 他



富士教育訓練センターでの鉄骨建方実習

株式会社鈴木組（本社）

〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-43-3

電話：03-3822-1785 FAX：03-3822-1787

鈴木職業訓練校

〒121-0012 東京都足立区青井 4-44-20 電話/FAX：03-5681-1833

建築設計・製図CAD

DRA-CAD16

図面情報の多様性をマルチに活用する

シンプルで自由度の高い国産の建築設計・製図CAD。

建築の企画から生産、運用までのあらゆる場面を強力に支援します。

※教育版価格は別途お問い合わせください。

》 設計支援

日影・天空率計算や、面積表、採光計算、構造図作成コマンドも標準装備です。



データ提供：西本建築事務所 様

》 操作性

直感的な操作を可能にする、画面デザイン、メニュー構成でスマートに操作できます。

》 互換性

PDF入出力をはじめ、AutoCADやJw_cadとの互換性に優れています。さらに、BIMやSketchUpのデータも利用できます。

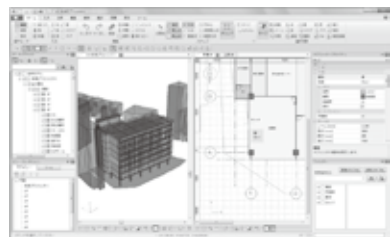
3次元建築設計システム

i-ARM

建築設計の初期段階で各種検討と確認が行えるシンプルBIM。

簡単な入力で3次元建物モデルが作成でき、多彩なビジュアル表現で設計情報を確認できます。

また、基盤地図情報から立地条件の取得、建築可能空間を算出、日影・天空率計算などの集団規定や単体規定に関する法規的な検討、日射量計算等も行える3次元設計ツールです。



株式会社 **建築ピボット**
(構造システム・グループ)
<http://www.pivot.co.jp/>

本社営業 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3 TEL 03-6821-1691 FAX 03-5978-6215

大阪支社 06-6232-0760 札幌営業所 011-218-6628 仙台営業所 022-267-2811 名古屋営業所 052-583-0350 福岡営業所 092-716-9311

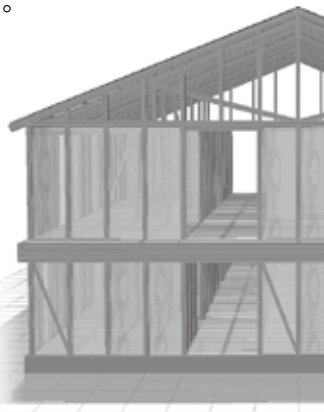
在来木造の構造計算

HOUSE-ST1 Ver.7.5

「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)」に準拠

木造軸組工法の構造計算を行い、「JIS A 3301を用いた木造校舎に関する技術資料」や高倍率耐力壁にも対応しています。また、長期優良住宅の「耐震性」認定基準にも適用できます。木造3階・2階建てのほか、RC、S造との立面混構造建物の木造部分の計算が行えます。

- 》 CAD図面を下図として、部材入力時に利用できます。
- 》 建物自重、地震力、風圧力の自動計算ができます。
- 》 偏心率、剛性率、層間変形角の確認ができます。
- 》 入力した建物形状は、3Dモデルにより即座に確認できます。
- 》 木造集成材等建築物として検討する場合は、WOOD-STへ建物データを転送できます。

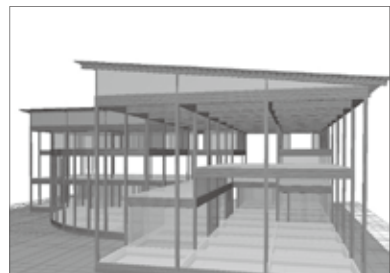


木造集成材等建築物の一貫構造計算

WOOD-ST

建築基準法施行令46条2項1号によるルート2までの3階建て以下の木造建物の構造計算を行います。

ラーメン架構を全体または一部に持つ、壁とブレースが混在する建物やスキップフロアのある建物も形状通りにモデル化し、荷重計算、応力計算、断面計算を一貫して行えます。接合金物は、メーカー製金物に対応したデータベースを参照して効率的に入力できます。



WOOD-STの3D表示画面



株式会社 **構造システム**
URL <http://www.kozo.co.jp/>

本社営業 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3
大阪支社営業 〒541-0041 大阪市中央区北浜1-1-10
札幌営業所 TEL.011-218-6628 仙台営業所 TEL.022-267-2811 名古屋営業所 TEL.052-583-0350 福岡営業所 TEL.092-716-9311

TEL.03-6821-1311 FAX.03-5978-6215
TEL.06-6203-2430 FAX.06-6203-4117

教職員の皆様!

全国の工業高校で多数使われている、
資格合格への必携テキストをご案内します。

おかげさまで平成 30 年度 9200 冊突破!

2級建築施工管理技士 学科テキスト

全面カラーで構成された「目で見て覚える受験テキスト」です。
過去の本試験問題を中心とする長年の蓄積されたデータを基に
徹底分析し、学科試験受験対策用教材としてまとめたものです。

- ・はじめに、目次、試験問題の構成
- ・第1編 施工・共通
- ・第2編 施工管理法
- ・第3編 法規
- ・第4編 建築学
- ・第5編 実地

全面カラー
目で見て覚える
受験テキスト!



画像は過年度のものです

2級土木施工管理技士 学科テキスト

試験に合格することを第一の目標に、過去の試験問題を徹底的に
分析し、最も効率よく理解・記憶ができるように編集しています。
NOTE欄に、出題頻度・ポイント・用語・注意・参考等を記載した
わかりやすいテキストです。

- ・はじめに、目次
- ・第1章 土木一般
- ・第2章 共通工学
- ・第3章 法規
- ・第4章 施工管理
- ・第5章 専門土木

試験に合格の
エッセンスを
凝縮!



*画像は過年度のものです

日建学院

お問い合わせは、お近くの日建学院か、下記、法人部学校担当までお気軽にどうぞ。
(株)建築資料研究社(日建学院) / 営業本部 法人部学校担当

TEL.03-3988-4711

1987~2016年 合格者累計

1級建築士
合格実績 **No.1**

1級建築士96,701人、2級建築士171,282人輩出

※2級 1980~2016年 合格者累計

1級建築士 日建学院合格者総数 96,701人 / 全国合格者総数 164,244人

※日建学院合格者占有率 58.9% 1級建築士の半分以上が日建学院出身者です。

合格実績には、模範試験のみの受講生、教材購入のみの方、及び無料の役務提供者は一切含まれておりません。

※全国合格者総数は (財) 建築技術教育普及センター発表試験結果データ (昭和55年~平成24年累計) です。

どれどれ？

俺でも受けられるの？

将来の為に今から資格を取っておこうと思うんだ！

これ！

建築及び電気工事
施工管理技術検定試験
2級学科試験

建設業経理検定
建設業経理士検定試験(1級・2級)
建設業経理事務士検定試験・特別研修(3級・4級)

高校生が在学中に取得できる

業界注目のシ・カ・ク

俺も受けてみようかな

うん！私がんばる！

・多くの建設企業が欲しい人材！

・一生モノの資格を今すぐ手に入れよう！

・ジュニアマイスター顕彰の対象資格！

“プロ”への一步を踏み出そう!!

建築・電気工事 施工管理技術検定試験

施工管理技術検定試験

検索



<http://www.fcip-shiken.jp/>

可能性は無量大∞!!

建設業経理検定

建設業経理検定

検索



<https://www.keiri-kentei.jp/>

建設業の魅力がたっぷり♡

見る、知る、働く、

建設産業のJobポータル

未来をこくろ
君たごへ
genba-go.jp >



建設現場へGO!

一般財団法人 建設業振興基金